

県政モニターアンケートの結果

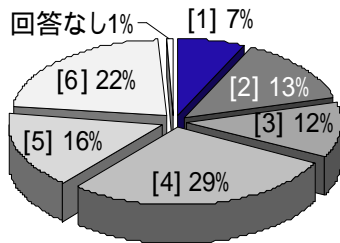
平成20年(2008年)3月9日
滋賀県土木交通部
河港課 / 流域治水政策室

1. 「川」に関する意識について(平成16年度調査)

「川に関する意識について」アンケート結果まとめ(平成16年度調査:回答数247)

【川と接する頻度について】

川を利用している人は6割以上にのぼり、そのうち約2割の人が週1回以上利用しています(Q1)。また、98%近くの人が川の横や川に架かった橋の上を通っており、そのうちの過半数の人が週5回以上通っています(Q2)。川の横や上を通ったときに意識して川を見ている人はそのうちの約半数です(Q3)。

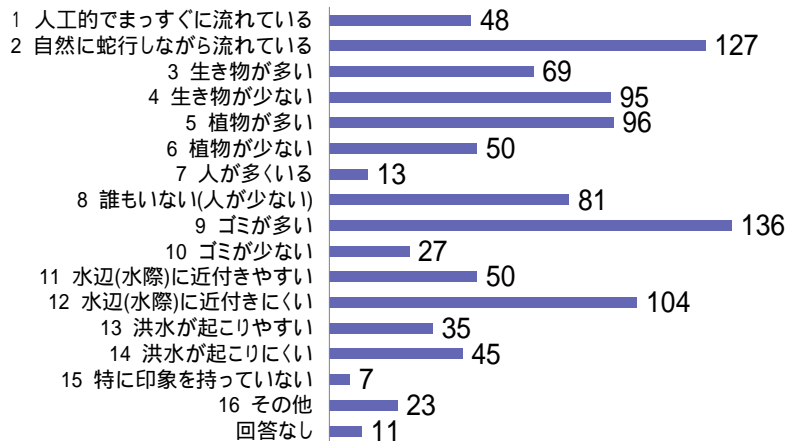


- 1 週5回以上、利用している
- 2 週1回以上、利用している
- 3 月1回以上、利用している
- 4 年1回以上、利用している
- 5 ほとんど利用していないが、今後は利用したいと思っている
- 6 ほとんど利用していない
- 回答なし

(Q1) 川の利用の頻度について

【現在の川のイメージについて】

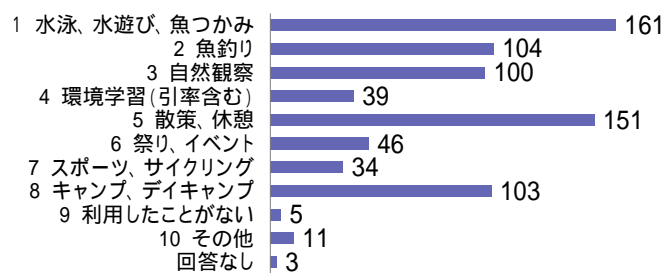
現在の川のイメージについては、ゴミが多い、水辺に近づきにくい、生き物が少ないなどの意見が多い結果となっています。川を眺めるときには、水の様子(水質、水量)や動植物に目がいく人が多いようです。(Q4, Q5)



(Q4) 川の印象について

【川の利用について】

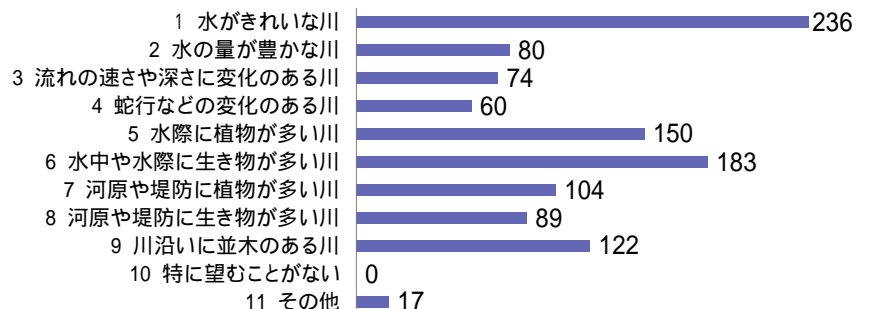
川の利用方法についての質問には、川の水と直接ふれあう「水泳、水遊び、魚つかみ」と、水辺にやすらぎを求める「散策、休憩」の回答が多く(Q6)、これからの河川整備に対しても、こうした利用を促進するための整備を求める声が多くなっています(Q7, Q8)。



(Q6) 川の利用方法について

【自然豊かな川の姿について】

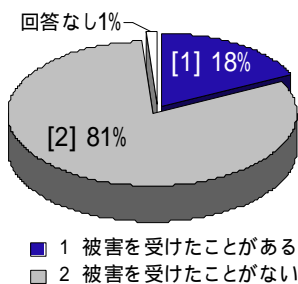
自然豊かな川の姿としては、水のきれいな川、生き物の多い川、水辺の植物が多い川の順に回答が多い結果となっています(Q9)。



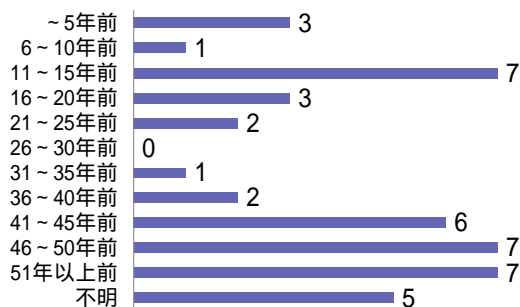
(Q9) 自然豊かな川の姿について

【洪水災害について】

洪水の未体験の人が8割を超え(Q10)、受けたことがある人でも30年以上前または不明の人が多くなっています(Q11)。

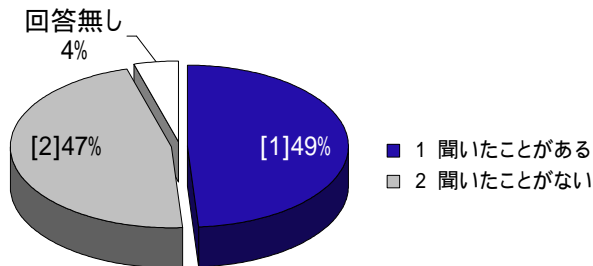


(Q10) 自身の水害経験について

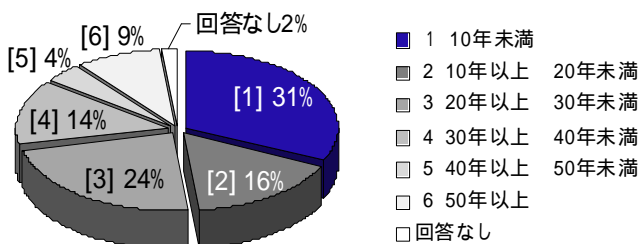


(Q11) 水害経験の時期について

また、今住んでいるところの洪水の話聞いたところがある人は過半数近くにのぼります(Q12)、こちらも30年以上前または不明の話が多いようです(Q13)。一方、今住んでいるところは約6割が親の代もしくは自分の代からで(Q15)、7割以上の方が今の住まいに住み始めて30年未満です(Q14)。



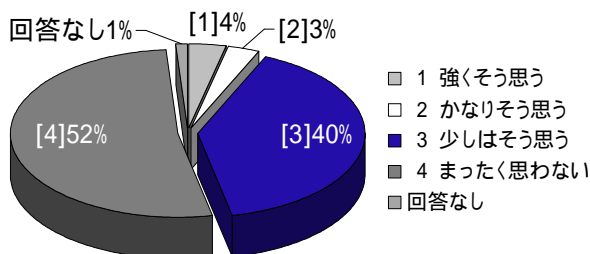
(Q12) 地域の水害経験について



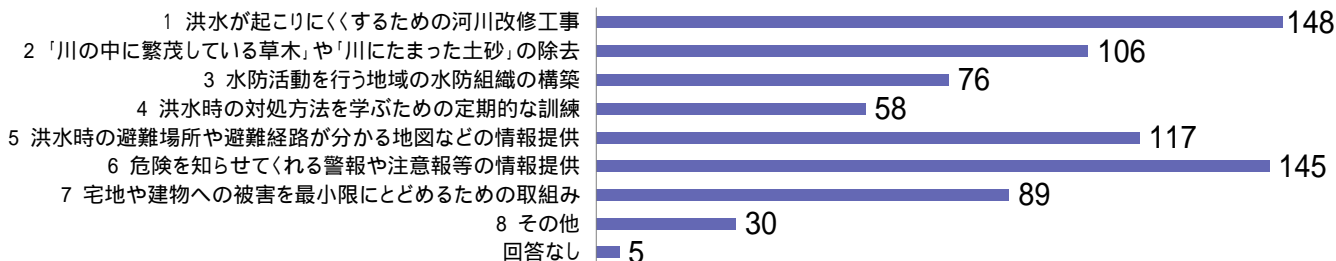
(Q14) 住みはじめてからの年数

今後10年以内に自宅が洪水被害を受けると思うかという質問には、「思う」と答えた人は7%程度であり、「まったく思わない」と答えた人が過半数を占めています(Q16)。

一方、これからの治水整備については、河川改修工事のハード整備と合わせて災害に関する情報の提供を望む声が多くなっています(Q17)。



(Q16) 水害の危険性の認識について

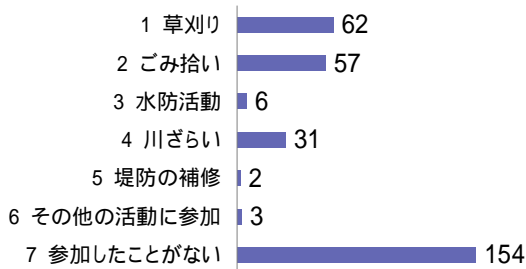


(Q17) 行政に望む取り組みについて

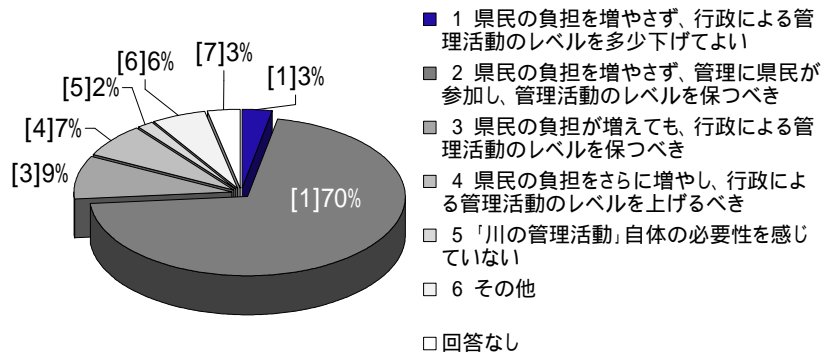
【川の管理について】

川の管理活動に参加したことがない人が6割以上にのぼり、参加したことがある人でも年1, 2回の頻度が最も多くなっています(Q18)。

一方、今後の河川管理の進め方については、「県民の負担増は行わず、県民と行政との協働により、現在の管理レベルを保つべき」との意見が7割を超える結果となっています(Q19)。



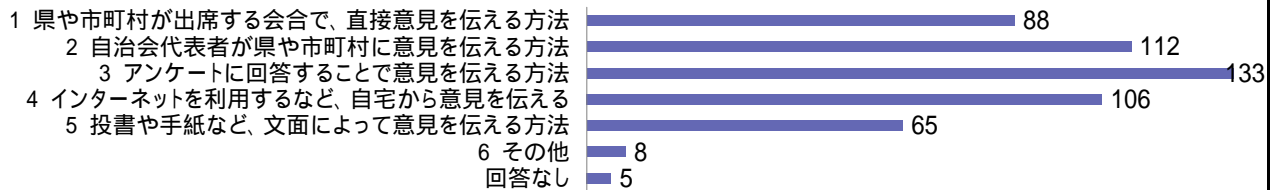
(Q18) 川の管理活動への参加について



(Q19) 川の管理活動の今後について

【県民の意見の把握について】

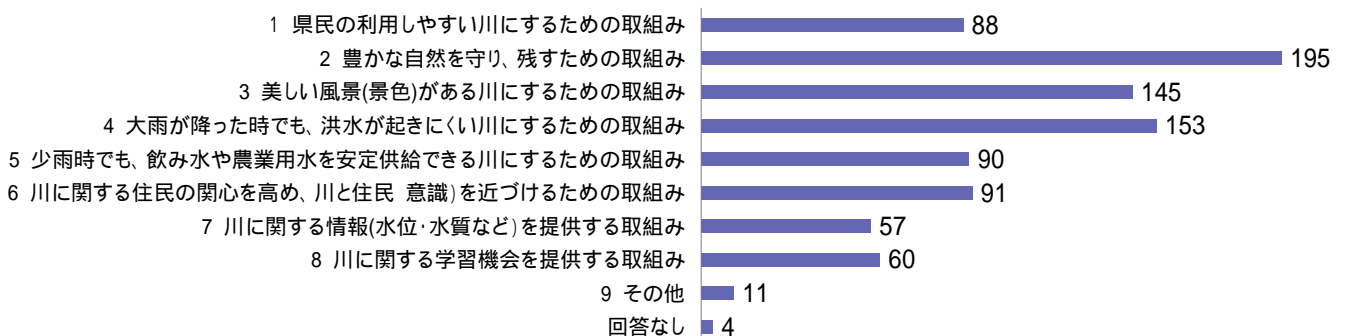
行政が県民の意見を把握する方法としては、直接的な対話よりも地域代表者やアンケート、インターネット等により意見を伝える方法の方を好ましいと考えている人が多いようです(Q20)。



(Q20) 県民の意見の把握について

【今後の川づくりへの取り組みについて】

今後の川づくりに望むことは、自然環境の保全が最も多く、次いで治水への取り組み、景観の保全・創出の順で多くなっています(Q21)。



(Q21) 今後の川づくりへの取組について

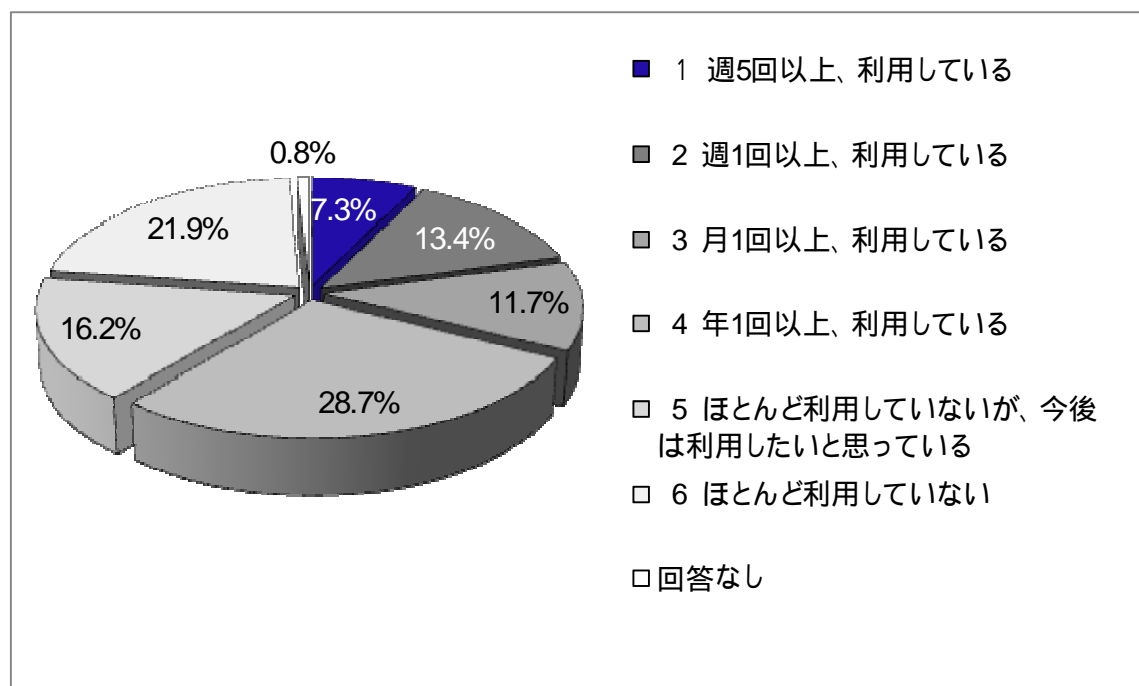
留意事項

本概要版の回答項目の標記は、実際のアンケート時の回答項目を一部簡略化して標記しています。

Q1 あなたは現在、どれ位の頻度で活動(散策・スポーツ・魚釣り・水遊びなど)や休憩に川を利用していますか？下の 1 ~ 6 の中からあてはまるもの 1 つを選んでください。

川を利用している人は、247 人中 151 人で 61.1%である。頻度としては、「年 1 回以上利用している」人が最も多い(全体の 28.7%, 利用している人の 47.0%)。「週 5 回以上利用している」人は、利用者の 11.9%(全体の 7.3%)となっている。一方、「ほとんど利用していない」人のうち、今後は利用したいと思っている人は 42.5%(全体の 16.2%)である。

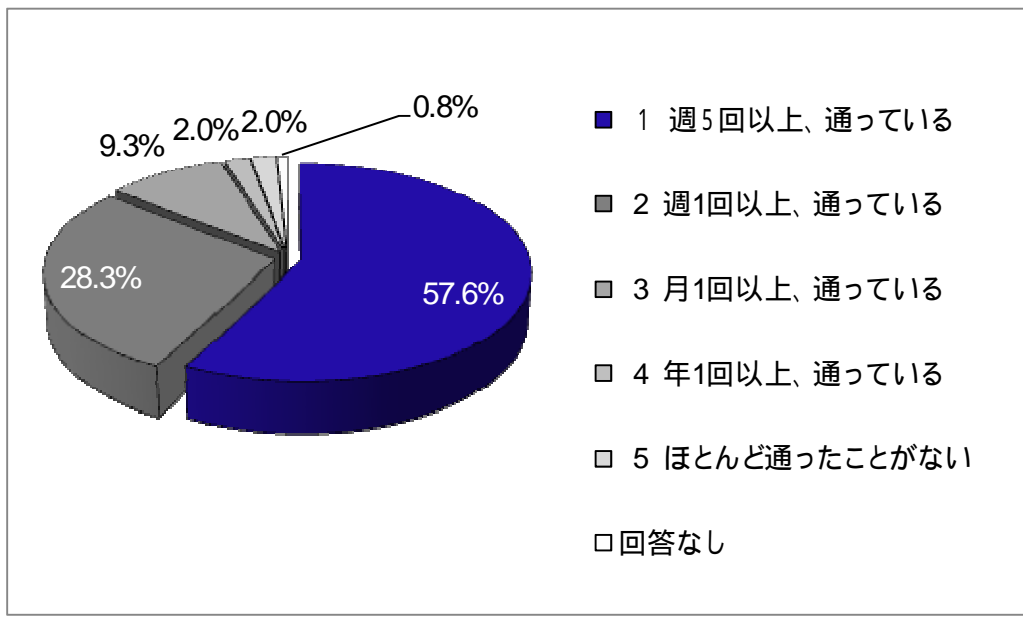
項 目	人数	割合
1 週 5 回以上、利用している	18	7.3%
2 週 1 回以上、利用している	33	13.4%
3 月 1 回以上、利用している	29	11.7%
4 年 1 回以上、利用している	71	28.7%
5 ほとんど利用していないが、今後は利用したいと思っている	40	16.2%
6 ほとんど利用していない	54	21.9%
回答なし	2	0.8%
回答者数	247	



Q2 あなたは現在、どの位の頻度で「川の横を通ったり」、「川にかけられている橋の上を通ったり」していますか？下の 1 ~ 5 の中からあてはまるもの1つを選んでください。

「川の横を通ったり」、「川にかけられている橋を通っている」人が 247 人中 240 人と大多数（97.2%）である。最も多いのは「週5回以上通っている」人で過半数を占める。

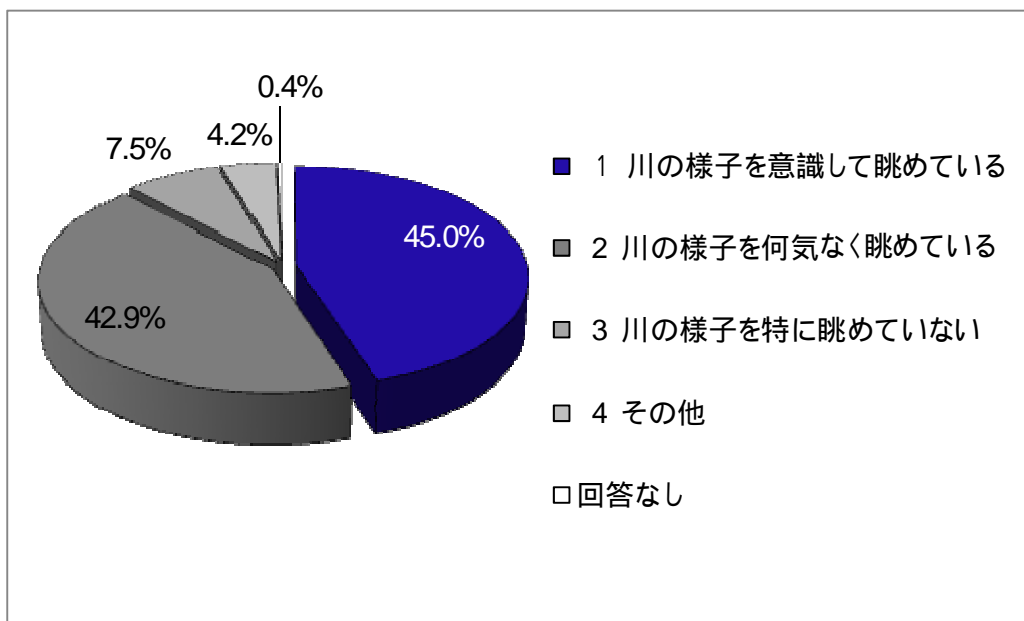
項 目	人数	割合
1 週5回以上、通っている	142	57.5%
2 週1回以上、通っている	70	28.3%
3 月1回以上、通っている	23	9.3%
4 年1回以上、通っている	5	2.0%
5 ほとんど通ったことがない	5	2.0%
回答なし	2	0.8%
回答者数	247	



Q3 【Q2で 1 ~ 4 を選んだ方へ】あなたは「川の横を通ったり」、「川にかけられている橋の上を通ったり」するときに、どのように川を眺めていますか？下の 1 ~ 4 の中からあてはまるもの1つを選んでください。

川の横や橋を通るとき「川の様子を意識して眺めている」人は 45%である。「特に眺めていない」人は 7.5%となっている。

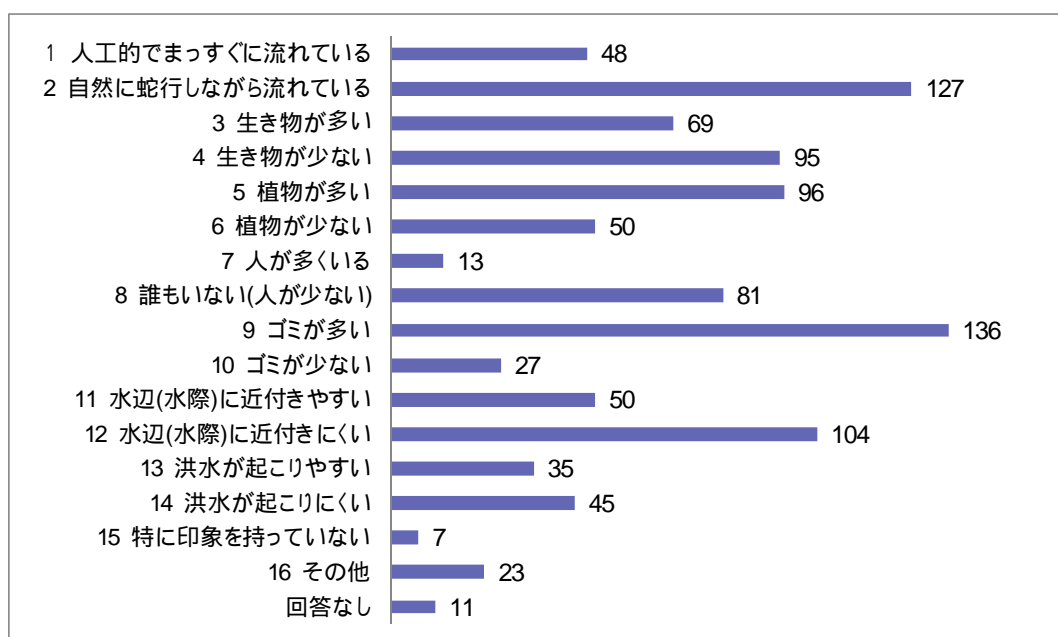
項目	人数	割合
1 川の様子を意識して眺めている	108	45.0%
2 川の様子を何気なく眺めている	103	42.9%
3 川の様子を特に眺めていない	18	7.5%
4 その他	10	4.2%
回答なし	1	0.4%
回答者数	240	



Q4 あなたは川に対してどのような印象をもっていますか？下の 1 ~ 16 の中からあてはまるもの全てを選んでください。

最も多い意見は「ゴミが多い」(55.1%)である。川の形状については「自然に蛇行しながら流れている」印象をもっている人が多い。生き物については「少ない」と感じている人の割合が多く、植物は「多い」と感じている人が多い。また、「水辺に近づきにくい」と感じている人が多い。

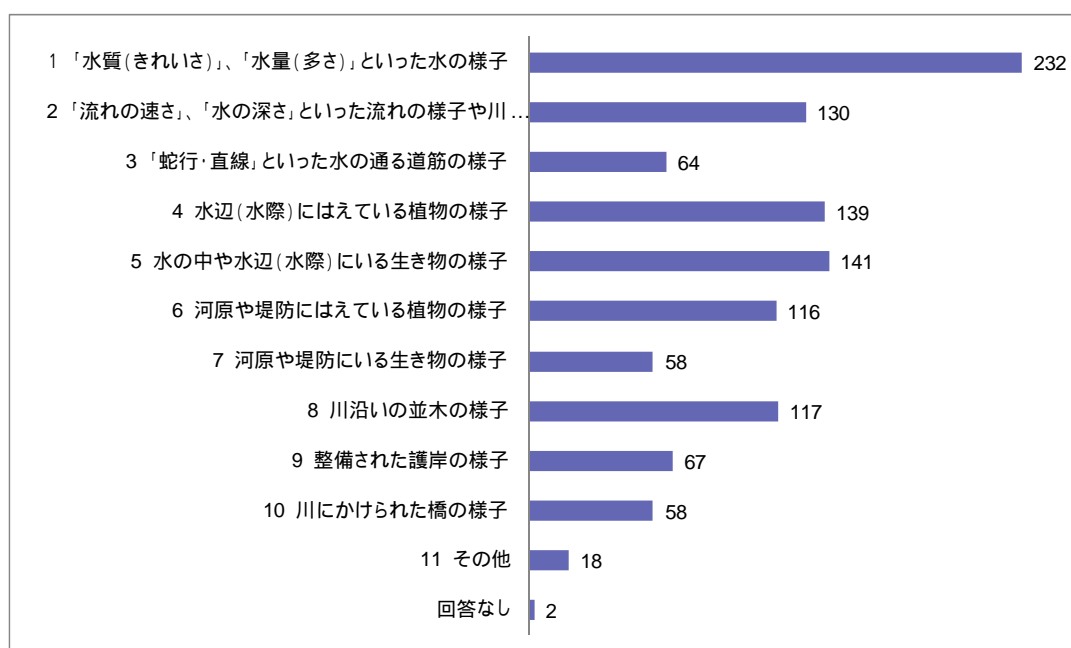
項 目	人数
1 人工的でまっすぐに流れている	48
2 自然に蛇行しながら流れている	127
3 生き物が多い	69
4 生き物が少ない	95
5 植物が多い	96
6 植物が少ない	50
7 人が多くいる	13
8 誰もいない(人が少ない)	81
9 ゴミが多い	136
10 ゴミが少ない	27
11 水辺(水際)に近づきやすい	50
12 水辺(水際)に近づきにくい	104
13 洪水が起こりやすい	35
14 洪水が起こりにくい	45
15 特に印象を持っていない	7
16 その他	23
回答なし	11



Q5 あなたが川に行って風景(景色)を眺める場合に、河のどのような場所(部分)に目がいくかについて、下の 1 ~ 11 の中からあてはまるもの全てを選んでください。

最も目がいく部分は「『水質』『水量』といった水の様子」で 93.9%を占める。次いで、「水の中や水辺(水際)にいる生き物の様子」、「水辺(水際)にはえている植物の様子」に目がいくという意見が多い。

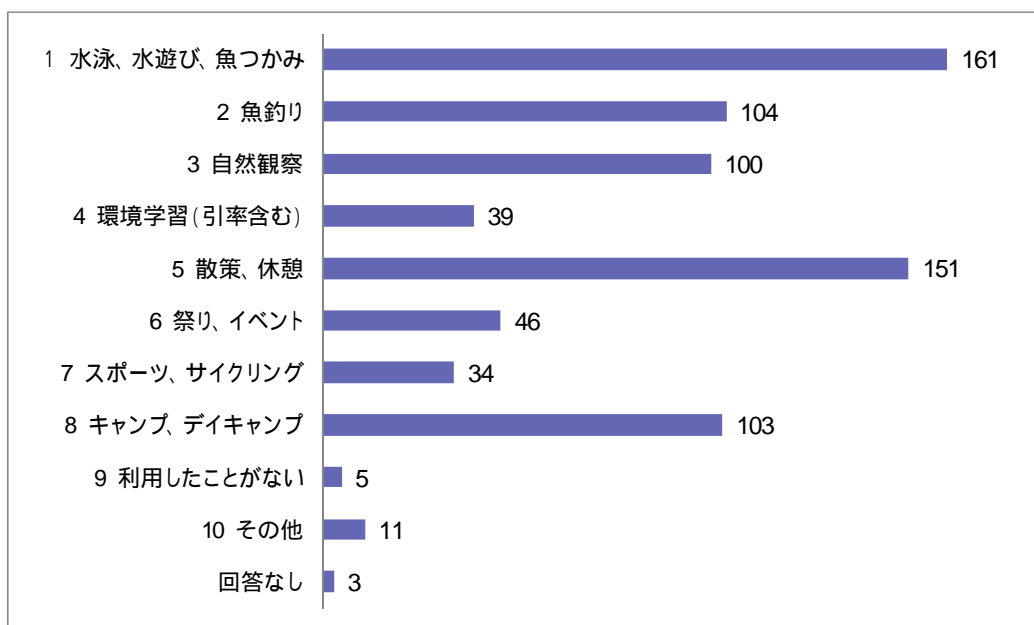
項 目	人数
1 「水質(きれいさ)」、「水量(多さ)」といった水の様子	232
2 「流れの速さ」、「水の深さ」といった流れの様子や川のかたち	130
3 「蛇行・直線」といった水の通る道筋の様子	64
4 水辺(水際)にはえている植物の様子	139
5 水の中や水辺(水際)にいる生き物の様子	141
6 河原や堤防にはえている植物の様子	116
7 河原や堤防にいる生き物の様子	58
8 川沿いの並木の様子	117
9 整備された護岸の様子	67
10 川にかけられた橋の様子	58
11 その他	18
回答なし	2



Q6 あなたはこれまで川をどのようなことに利用してきましたか？下の 1 ~ 10 の中からあてはまるもの全てを選んでください。

川の利用目的では、「水泳、水遊び、魚つかみ」が最も多い(65.2%)。次に多いのは「散策、休憩」(61.1%)である。また、「魚釣り」、「自然観察」、「キャンプ、デイキャンプ」の利用も多い。

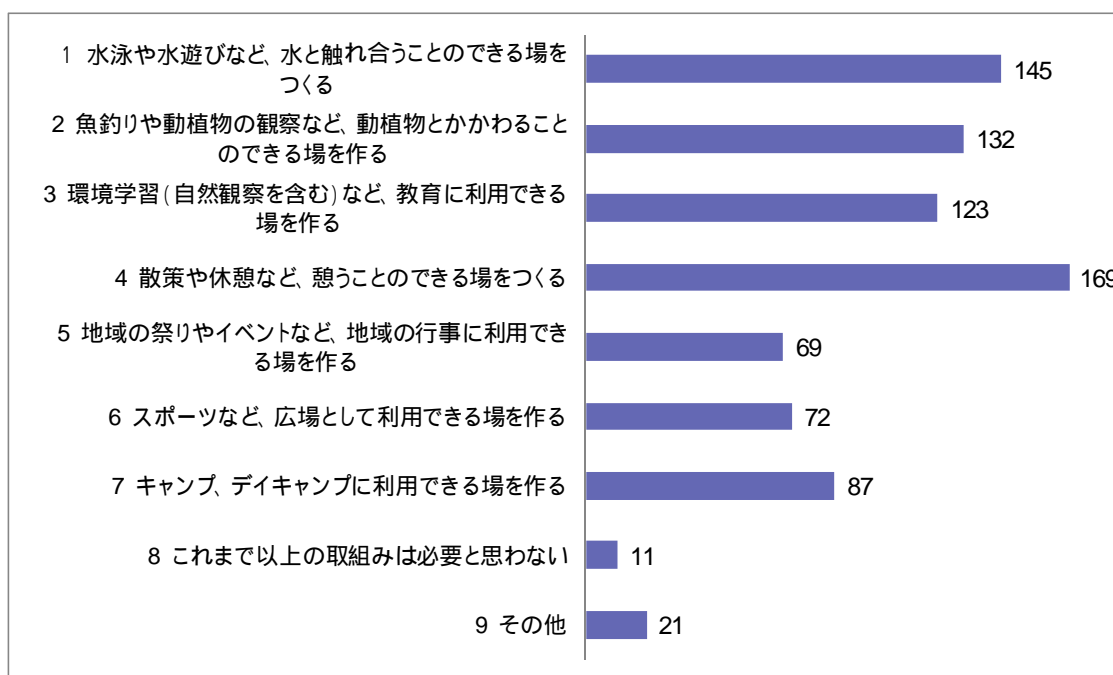
項目	人数
1 水泳、水遊び、魚つかみ	161
2 魚釣り	104
3 自然観察	100
4 環境学習(引率含む)	39
5 散策、休憩	151
6 祭り、イベント	46
7 スポーツ、サイクリング	34
8 キャンプ、デイキャンプ	103
9 利用したことがない	5
10 その他	11
回答なし	3



Q7 「県民の利用しやすい川」にするための取組みとして、あなたは滋賀県(行政)にどのような取組みを望みますか？下の 1 ~ 9 の中からあてはまるもの全てを選んでください。

「散策や休憩など、憩うことのできる場をつくる」ことを望む意見(68.4%)が最も多く、次いで「水泳や水遊びなど、水と触れあうことのできる場をつくる」ことへの要望(58.7%)が多い。また、「動植物とかがわることのできる場」(53.4%)、「環境学習などの教育に利用できる場」(49.8%)への取組みを求める意見も多い。

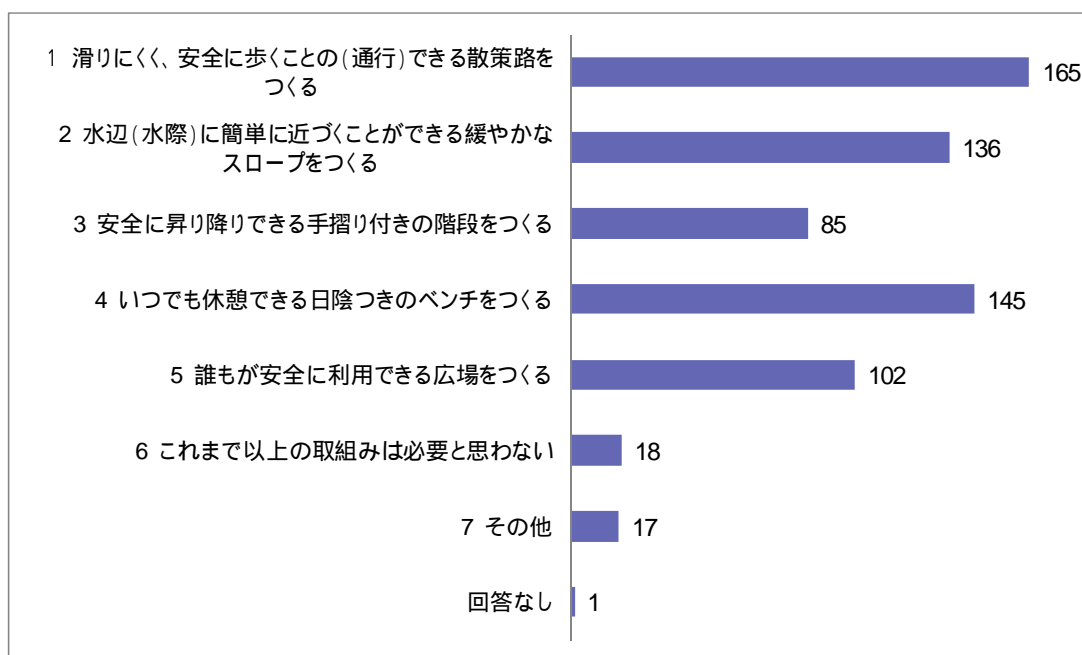
項 目	人数
1 水泳や水遊びなど、水と触れ合うことのできる場をつくる	145
2 魚釣りや動植物の観察など、動植物とかがわることのできる場を作る	132
3 環境学習(自然観察を含む)など、教育に利用できる場を作る	123
4 散策や休憩など、憩うことのできる場をつくる	169
5 地域の祭りやイベントなど、地域の行事に利用できる場を作る	69
6 スポーツなど、広場として利用できる場を作る	72
7 キャンプ、デイキャンプに利用できる場を作る	87
8 これまで以上の取組みは必要と思わない	11
9 その他	21
回答なし	0



Q8 「高齢者の方や障害を持つ方にも利用しやすい川」にするための取組みとして、あなたは滋賀県(行政)にどのような取組みを望みますか？下の 1 ~ 7 の中からあてはまるもの全てを選んでください。

「滑りにくく、安全に歩くことの(通行)できる散策路」(66.8%)「いつでも休憩できる日陰付きのベンチ」(58.7%)「水辺に簡単に近づくことができる緩やかなスロープ」(55.1%)を求める意見が多い。

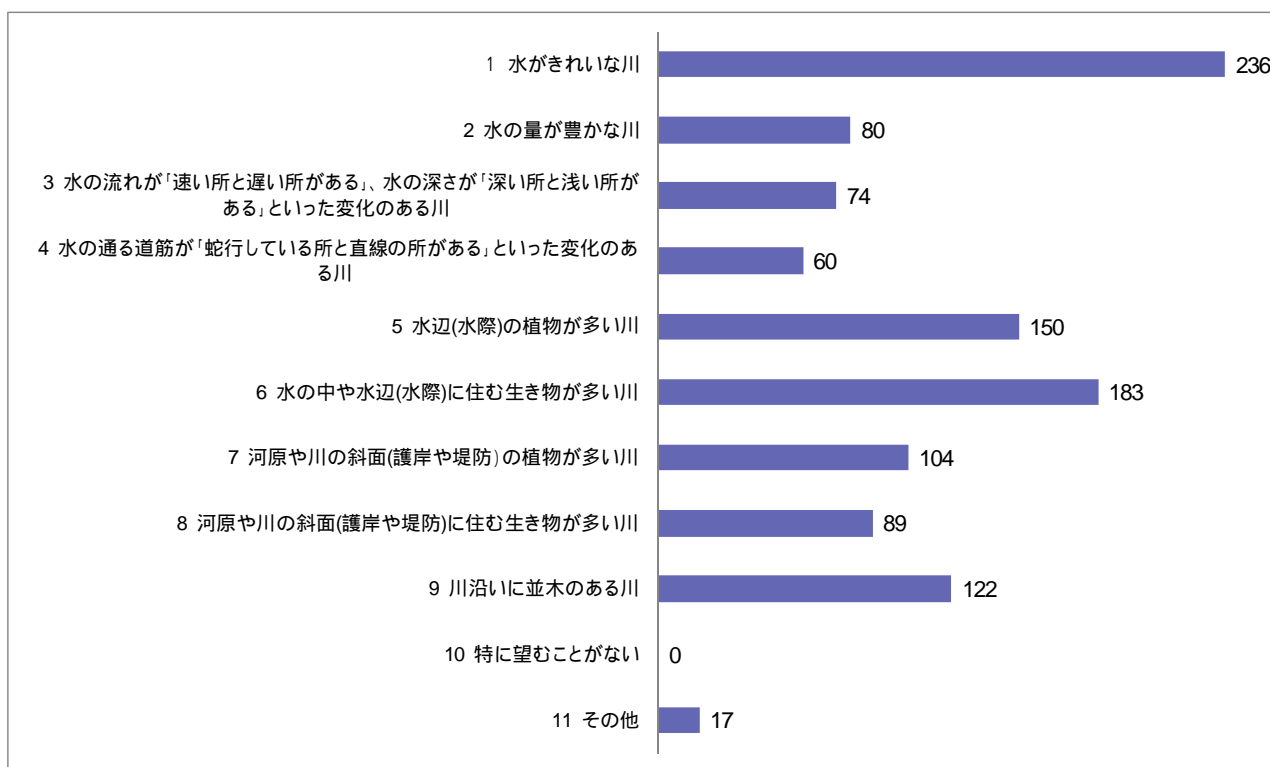
項 目	人数
1 滑りにくく、安全に歩くことの(通行)できる散策路をつくる	165
2 水辺(水際)に簡単に近づくことができる緩やかなスロープをつくる	136
3 安全に昇り降りできる手摺り付きの階段をつくる	85
4 いつでも休憩できる日陰付きのベンチをつくる	145
5 誰もが安全に利用できる広場をつくる	102
6 これまで以上の取組みは必要と思わない	18
7 その他	17
回答なし	1



Q9 「自然環境を守り、次世代に残す」重要性がさげばれている中、川においても動植物に配慮した取組みが求められています。あなたは「自然豊かな川の姿」を考えた場合、滋賀県の川がどのような川になると良いと思いますか？下の<1>～<11>の中からあてはまるもの全てを選んでください。

「水がきれいな川」(95.5%)が最も多く、次いで「水の中や水辺(水際)にすむ生き物が多い川」(74.1%)、「水辺(水際)の植物が多い川」(60.7%)が多い。

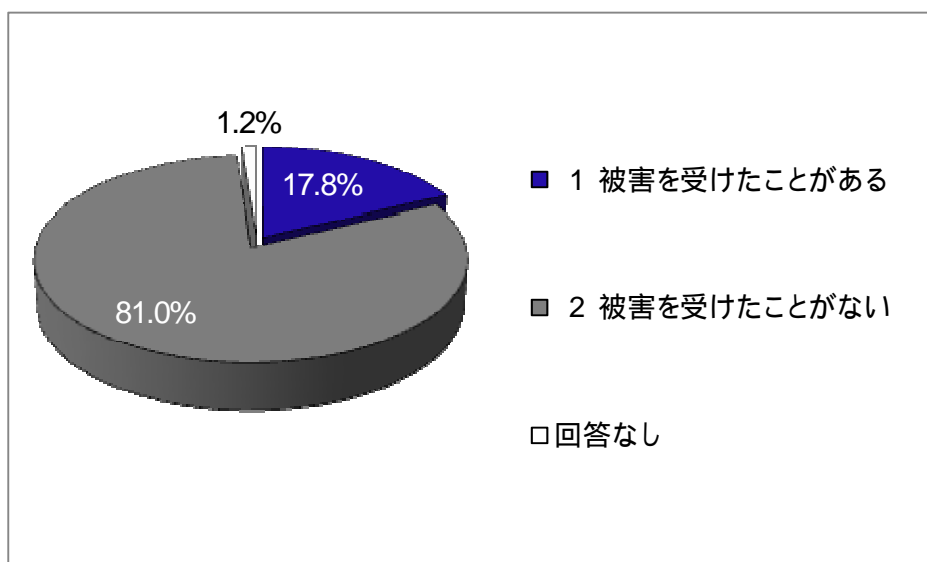
項 目	人数
1 水がきれいな川	236
2 水の量が豊かな川	80
3 水の流れが「速い所と遅い所がある」、水の深さが「深い所と浅い所がある」といった変化のある川	74
4 水の通る道筋が「蛇行している所と直線の所がある」といった変化のある川	60
5 水辺(水際)の植物が多い川	150
6 水の中や水辺(水際)に住む生き物が多い川	183
7 河原や川の斜面(護岸や堤防)の植物が多い川	104
8 河原や川の斜面(護岸や堤防)に住む生き物が多い川	89
9 川沿いに並木のある川	122
10 特に望むことがない	0
11 その他	17
回答なし	0



Q10 あなたは過去に洪水(浸水を含む、以下同じ)による被害を受けたことがありますか？ あてはまる方を選んでください。

「被害を受けたことがない」人が81.0%を占めている。

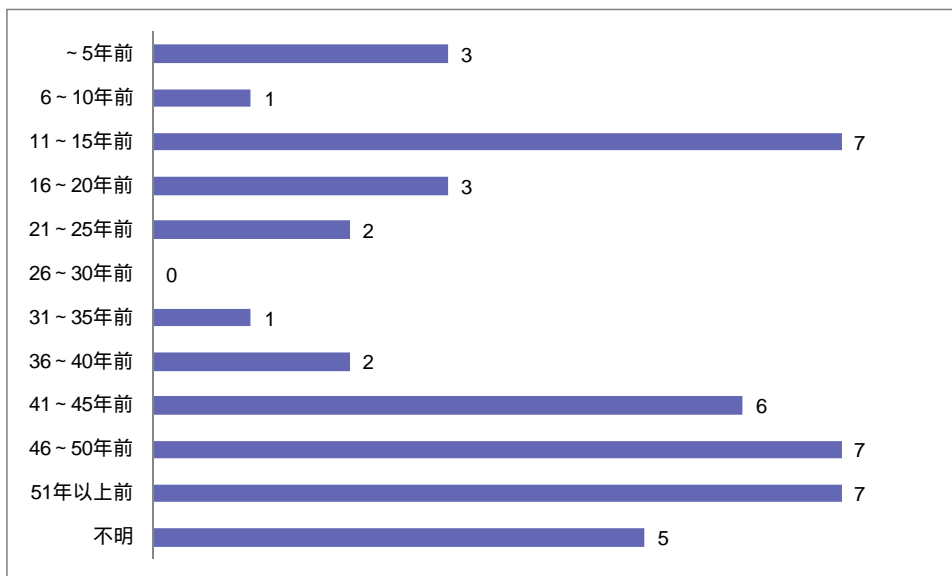
項 目	人数	割合
1 被害を受けたことがある	44	17.8%
2 被害を受けたことがない	200	81.0%
回答なし	3	1.2%
回答者数	247	



Q11(1) [Q10 で「<1>被害を受けたことがある。」と答えた方]あなたが過去に洪水による被害を受けた中で、最も被害の大きかった洪水は何年前のものですか？数字でお答えください。

「11～15年前」、「46～50年前」、「51年以上前」が44人中7人と最も多い。次いで「41～45年前」が6人となっている。また、3人の人が最近5年間に最も大きい被害を受けている。「不明」は5人である。

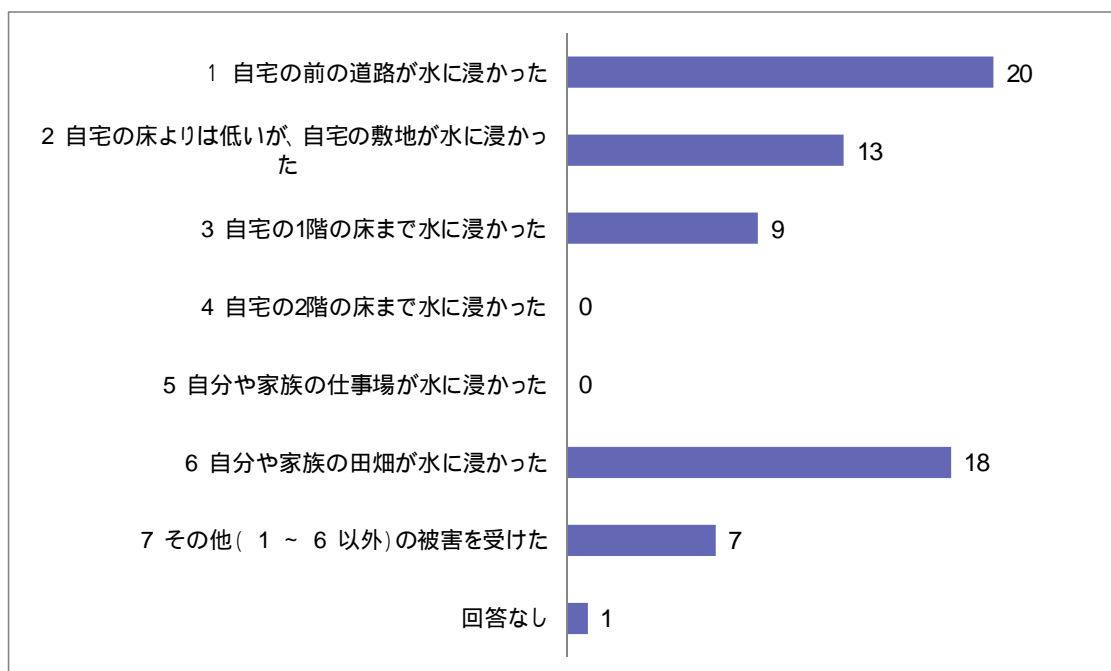
項 目	人数
～5年前	3
6～10年前	1
11～15年前	7
16～20年前	3
21～25年前	2
26～30年前	0
31～35年前	1
36～40年前	2
41～45年前	6
46～50年前	7
51年以上前	7
不明	5
回答者数	44



Q11(2) [Q10で「<1>被害を受けたことがある。」と答えた方へ]その時の被害状況はどのようなものでしたか？下の<1>～<7>の中からあてはまるもの全てを選んでください。

「自宅の敷地」が水に浸かったと回答した人が13人(29.5%)、「自宅の1階の床まで水に浸かった」と回答した人が9人(20.5%)である。

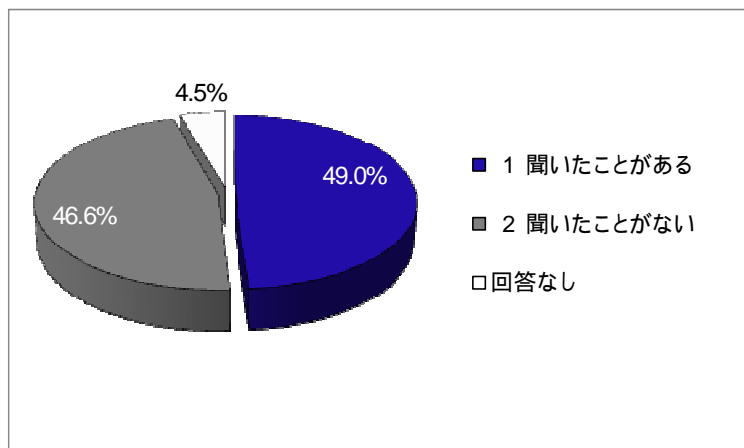
項 目	人数
1 自宅の前の道路が水に浸かった	20
2 自宅の床よりは低いが、自宅の敷地が水に浸かった	13
3 自宅の1階の床まで水に浸かった	9
4 自宅の2階の床まで水に浸かった	0
5 自分や家族の仕事場が水に浸かった	0
6 自分や家族の田畑が水に浸かった	18
7 その他(1～6以外)の被害を受けた	7
回答なし	1



Q12 あなたは、自分の住んでいる(または住んでいた)地域で起きた過去の洪水(被害)の話を人から聞いたことがありますか？あてはまる方を選んでください。

49.0%の人が過去の洪水(被害)の話を聞いたことがあると回答している。

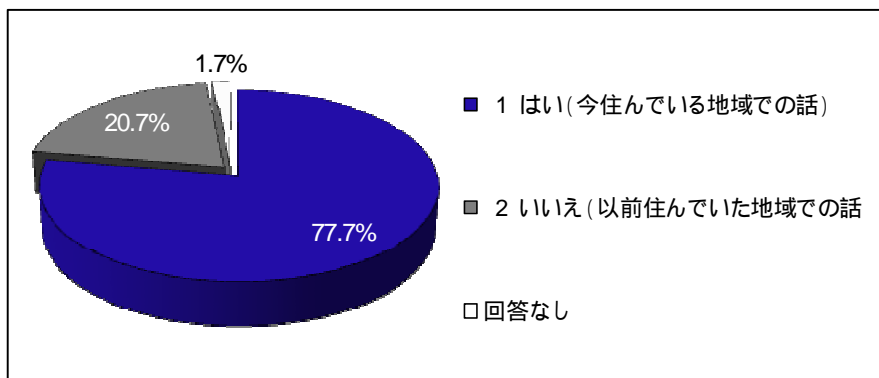
項目	人数	割合
1 聞いたことがある	121	49.0%
2 聞いたことがない	115	46.6%
回答なし	11	4.5%
回答者数	247	



Q13(1) 【Q12 で「<1>聞いたことがある。」と答えた方】その話は、今住んでいる地域で起きた洪水(被害)の話ですか？

過去の洪水(被害)の話を聞いたことがある人のうち、77.7%の人が「今住んでいる地域での話」として回答している。

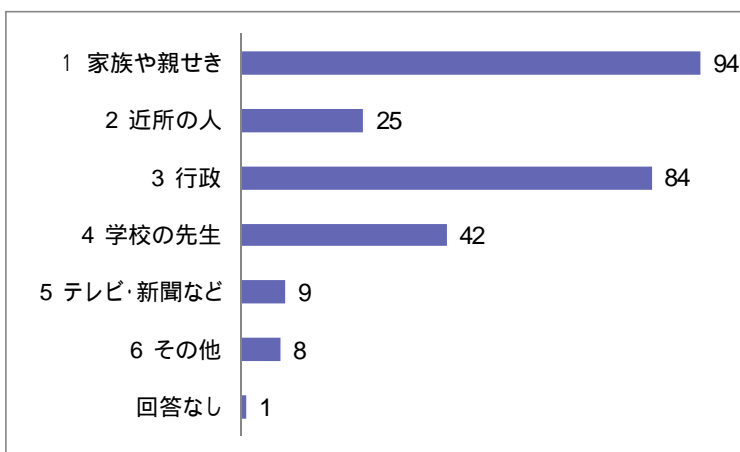
項目	人数	割合
1 はい(今住んでいる地域での話)	94	77.7%
2 いいえ(以前住んでいた地域での話)	25	20.7%
回答なし	2	1.7%
回答者数	121	



Q13(2)【Q12 で「<1>聞いたことがある。」と答えた方へ】その話は、誰から聞いた話ですか？あてはまるもの全てを選んでください。

「家族や親せき」から話を聞いた人(77.7%)が最も多い。次いで「行政」から(69.4%)という意見が多い。

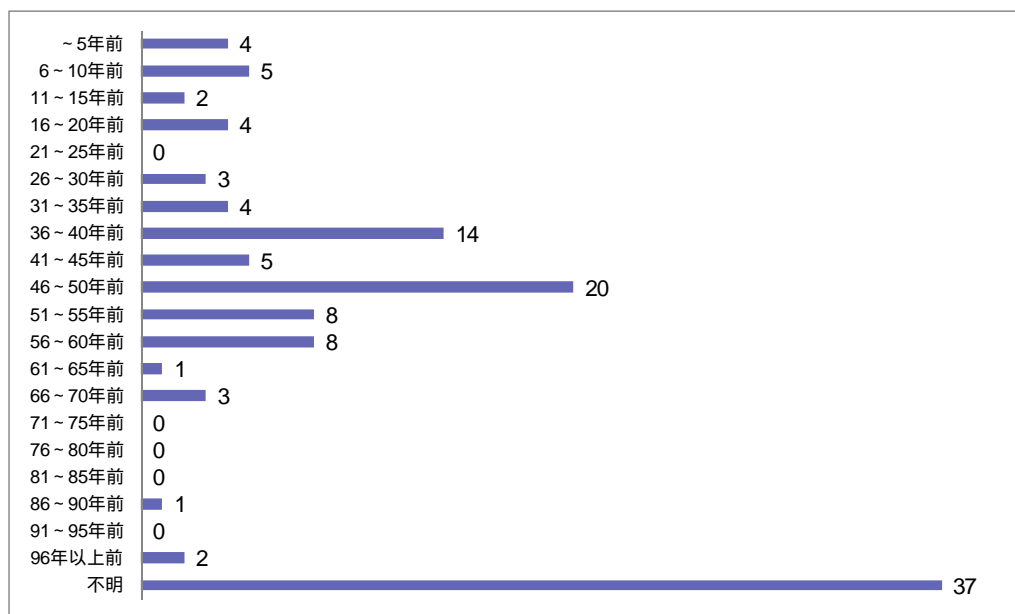
項目	人数
1 家族や親せき	94
2 近所の人	25
3 行政	84
4 学校の先生	42
5 テレビ・新聞など	9
6 その他	8
回答なし	1



Q13(3)【Q12 で「<1>聞いたことがある。」と答えた方】その話は、何年前に起きた洪水の話ですか？数字でお答えください。

「不明」と回答した人が最も多く、次いで「46～50年前」、「36～40年前」の順で多くなっている。

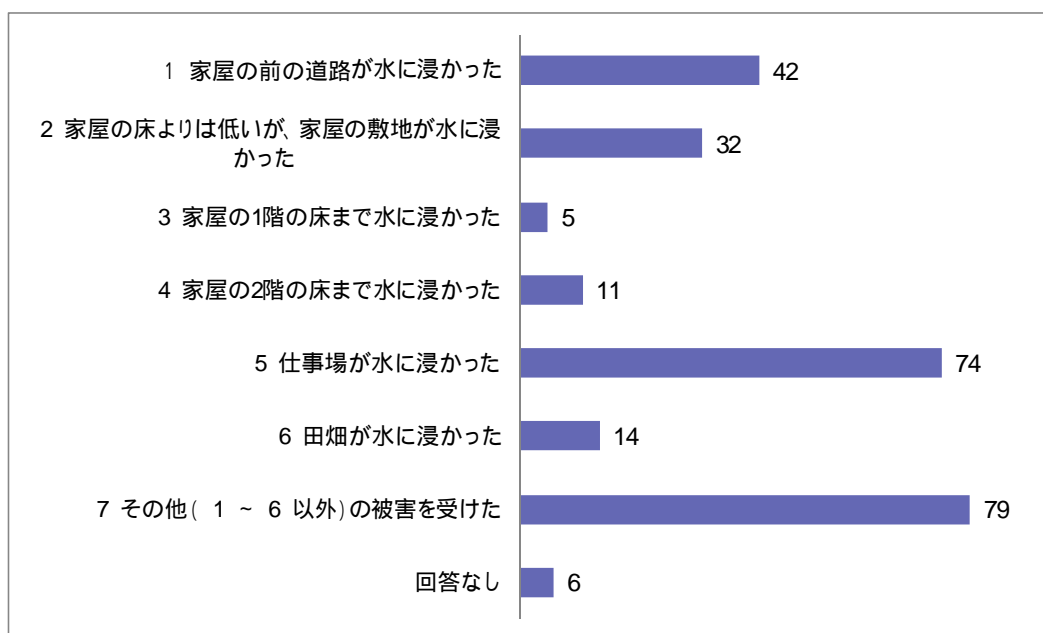
項目	人数
～5年前	4
6～10年前	5
11～15年前	2
16～20年前	4
21～25年前	0
26～30年前	3
31～35年前	4
36～40年前	14
41～45年前	5
46～50年前	20
51～55年前	8
56～60年前	8
61～65年前	1
66～70年前	3
71～75年前	0
76～80年前	0
81～85年前	0
86～90年前	1
91～95年前	0
96年以上前	2
不明	37
回答者数	121



Q13(4)【Q12 で「<1>聞いたことがある。」と答えた方へ】 その時の被害状況はどのようなもので
 すか？あてはまるもの全てを選んでください。

「仕事場が水につかった」話を聞いた人（65.3%）が最も多く、次いで「家屋の前の道
 路が水に浸かった」話を聞いた人（34.7%）が多い。家屋浸水（1階もしくは2階の床ま
 で水に浸かった）の話を聞いた人は、13.2%である。

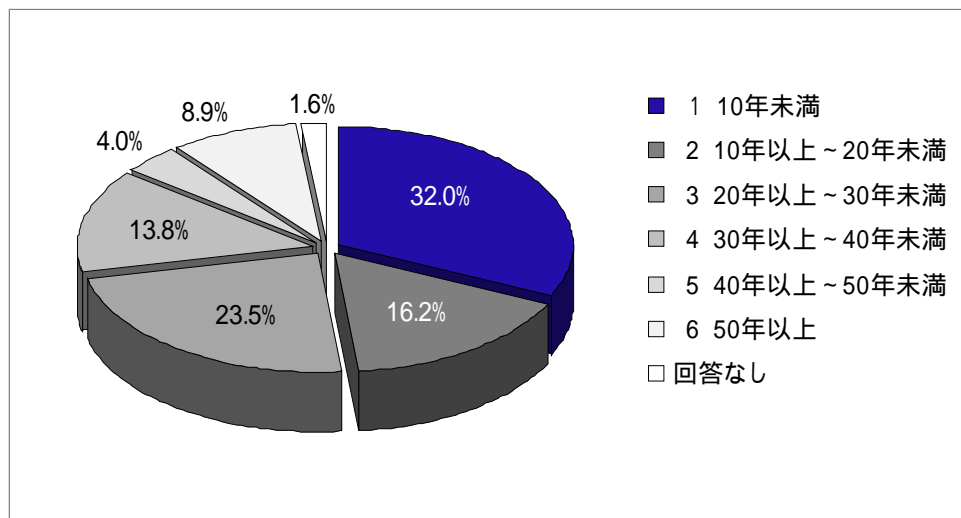
項 目	人数
1 家屋の前の道路が水に浸かった	42
2 家屋の床よりは低いが、家屋の敷地が水に浸かった	32
3 家屋の1階の床まで水に浸かった	5
4 家屋の2階の床まで水に浸かった	11
5 仕事場が水に浸かった	74
6 田畑が水に浸かった	14
7 その他(1～6以外)の被害を受けた	79
回答なし	6



Q14 あなたは、今のお住まい(住所)に何年住んでいますか？ その年数について、下の<1>～<6>の中からあてはまるもの1つを選んでください。

「10年未満」が32.0%で最も多い。次いで「20年以上30年未満」(23.5%)、「10年以上20年未満」(16.2%)の順で多くなっている。

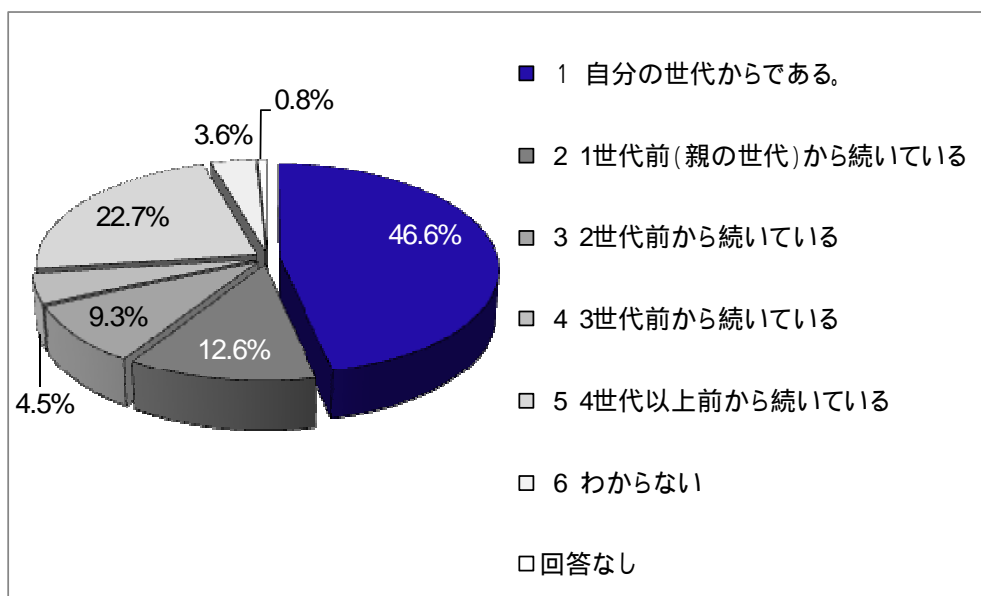
項目	人数	割合
1 10年未満	79	32.0%
2 10年以上～20年未満	40	16.2%
3 20年以上～30年未満	58	23.5%
4 30年以上～40年未満	34	13.8%
5 40年以上～50年未満	10	4.0%
6 50年以上	22	8.9%
回答なし	4	1.6%
回答者数	247	



Q15 あなたのお住まいはどれくらい前の世代から続いていますか？ 下の<1>～<6>の中からあてはまるもの1つを選んでください。

「自分の世代からである」住まいが46.6%で最も多い。次いで多いのは「4世代以上前から続いている」住まい(22.7%)である。祖父母の代以前(2世代以上前)から続いている住まいが36.5%にのぼっている。

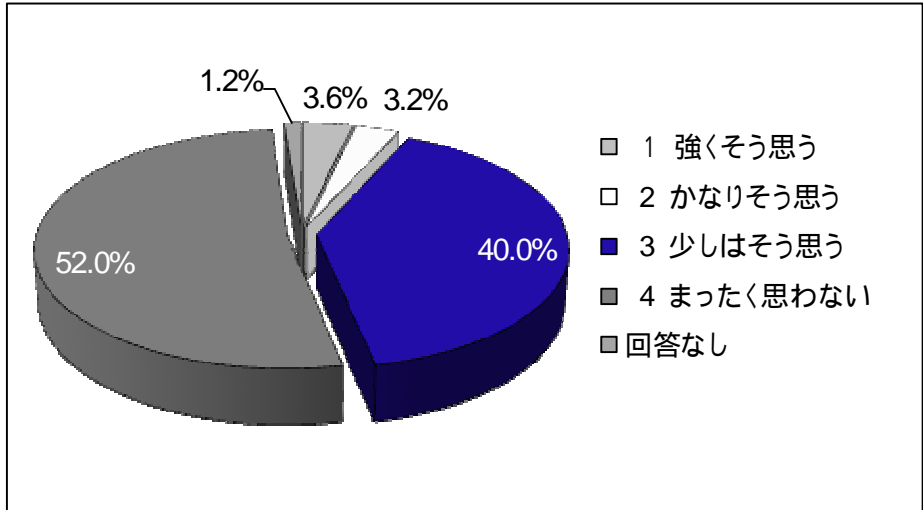
項目	人数	割合
1 自分の世代からである。	115	46.6%
2 1世代前(親の世代)から続いている	31	12.6%
3 2世代前から続いている	23	9.3%
4 3世代前から続いている	11	4.5%
5 4世代以上前から続いている	56	22.7%
6 わからない	9	3.6%
回答なし	2	0.8%
回答者数	247	



Q16 あなたは、今のお住まいが今後10年以内に洪水による被害を受けますか？ 下の<1>～<4>の中からあてはまるもの1つを選んでください。

洪水による被害を受けると「まったく思わない」人が52%にのぼる。「強くそう思う」と「かなりそう思う」人は合わせて6.8%である。

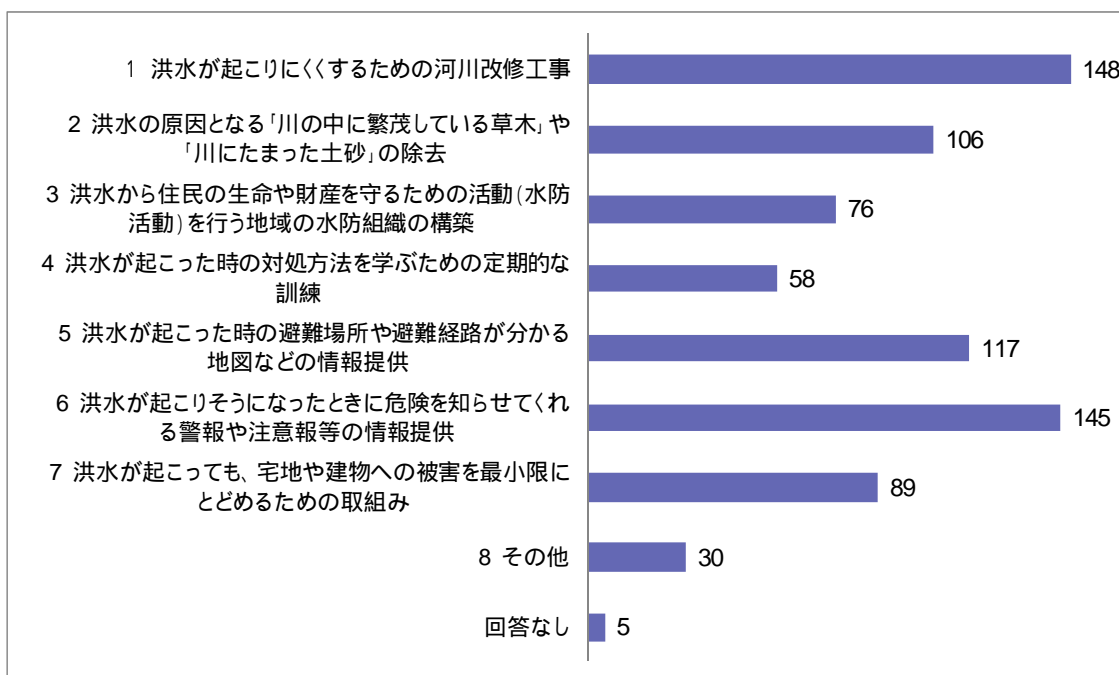
項 目	人数	割合
1 強くそう思う	9	3.6%
2 かなりそう思う	8	3.2%
3 少しはそう思う	99	40.1%
4 まったく思わない	129	52.2%
回答なし	3	1.2%
回答者数	247	



Q17 「洪水から県民の生命や財産を守る」ための対策として、あなたは滋賀県(行政)にどのような取組みを望みますか？下の<1>～<8>の中から重視して進めるべきもの全てを選んでください。

「洪水が起こりにくくするための河川改修工事」と「洪水が起こりそうになったときに危険を知らせてくれる警報や注意報等の情報提供」を望む回答がほぼ同じ割合で最も多い。

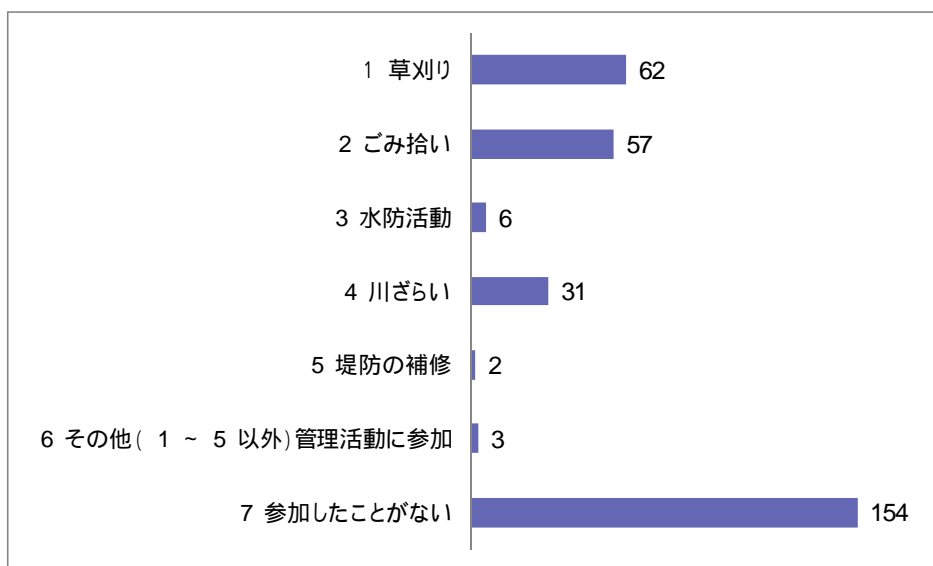
項 目	人数
1 洪水が起こりにくくするための河川改修工事	148
2 洪水の原因となる「川の中に繁茂している草木」や「川にたまった土砂」の除去	106
3 洪水から住民の生命や財産を守るための活動(水防活動)を行う地域の水防組織の構築	76
4 洪水が起こった時の対処方法を学ぶための定期的な訓練	58
5 洪水が起こった時の避難場所や避難経路が分かる地図などの情報提供	117
6 洪水が起こりそうになったときに危険を知らせてくれる警報や注意報等の情報提供	145
7 洪水が起こっても、宅地や建物への被害を最小限にとどめるための取組み	89
8 その他	30
回答なし	5



Q18(0) 川の安全性やより良い環境を長い間維持していくためには、様々な管理活動が必要と思われます。あなたはこれまで、川の管理活動に参加しましたか？下の<1>～<7>の中からあてはまるもの全てを選んでください。

川の管理活動に「参加したことがない」人が62.3%にのぼる。管理活動に参加したことのある人の中では、「草刈り」と「ゴミ拾い」が多い。

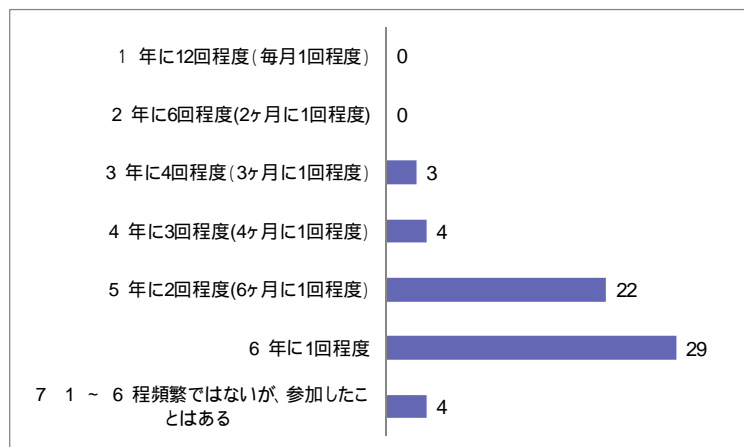
項 目	人数
1 草刈り	62
2 ごみ拾い	57
3 水防活動	6
4 川ざらい	31
5 堤防の補修	2
6 その他(1～5以外)管理活動に参加	3
7 参加したことがない	154



Q18(1-1:草刈り編)【Q18 で<1>を選んだ方】川の管理活動にはどのくらいの頻度で参加してきましたか？

草刈りをしたことがある人は全体の 25.1%であり、その内の 8 割以上の方が年に 1 ~ 2 回程度の参加である。

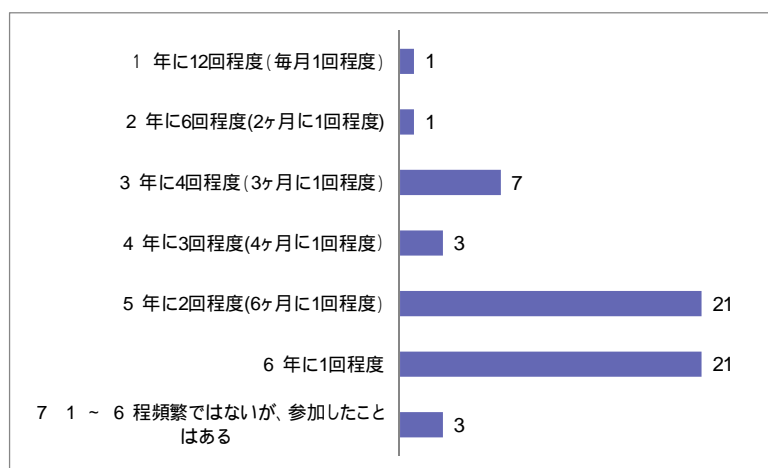
項目	人数
1 年に 12 回程度(毎月 1 回程度)	0
2 年に 6 回程度(2ヶ月に 1 回程度)	0
3 年に 4 回程度(3ヶ月に 1 回程度)	3
4 年に 3 回程度(4ヶ月に 1 回程度)	4
5 年に 2 回程度(6ヶ月に 1 回程度)	22
6 年に 1 回程度	29
7 1 ~ 6 程頻繁ではないが、参加したことはある	4
有効回答	62
回答者数(Q18(0)で草刈りを選択)	62



Q18(1-2:ゴミ拾い編)【Q18 で<2>を選んだ方】川の管理活動にはどのくらいの頻度で参加してきましたか？

ゴミ拾いをしたことがある人は全体の 23.1%であり、その内の 7 割以上の方が年に 1 ~ 2 回程度の参加である。

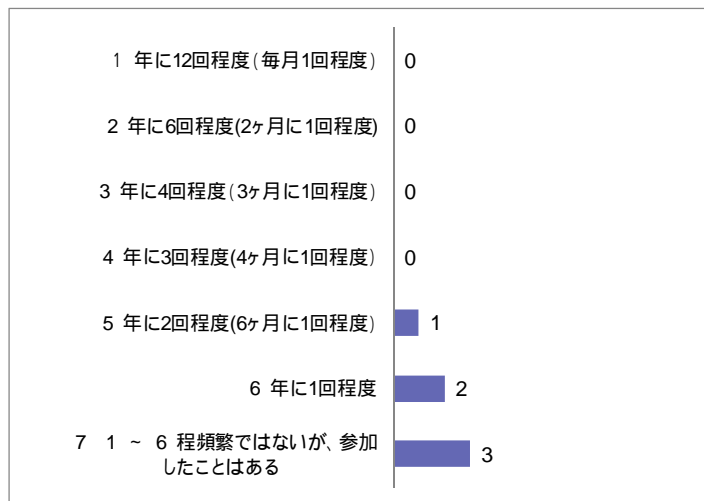
項目	人数
1 年に 12 回程度(毎月 1 回程度)	1
2 年に 6 回程度(2ヶ月に 1 回程度)	1
3 年に 4 回程度(3ヶ月に 1 回程度)	7
4 年に 3 回程度(4ヶ月に 1 回程度)	3
5 年に 2 回程度(6ヶ月に 1 回程度)	21
6 年に 1 回程度	21
7 1 ~ 6 程頻繁ではないが、参加したことはある	3
有効回答	57
回答者数(Q18(0)でゴミ拾いを選択)	57



Q18(1-3:水防活動編)【Q18で<3>を選んだ方】川の管理活動にはどのくらいの頻度で参加してきましたか？

水防活動をしたことがある人は全体の2.4%(247人中6人)であり、「年に2回程度参加」が1人、「年に1回程度参加」が2人、「参加したことがある」人が3人となっている。

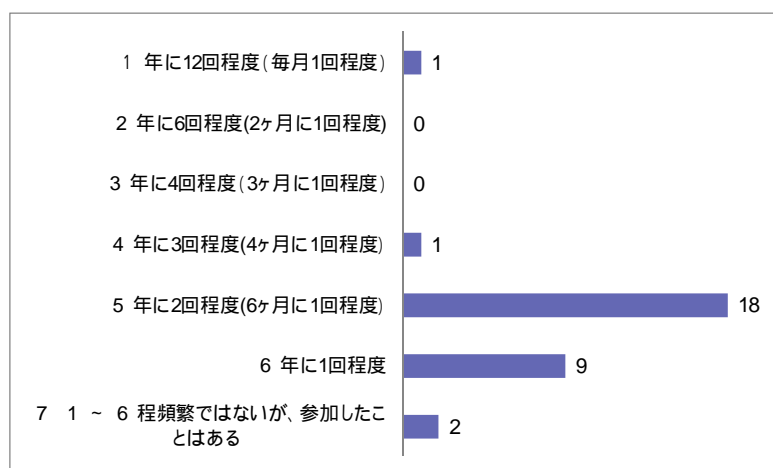
項目	人数
1 年に12回程度(毎月1回程度)	0
2 年に6回程度(2ヶ月に1回程度)	0
3 年に4回程度(3ヶ月に1回程度)	0
4 年に3回程度(4ヶ月に1回程度)	0
5 年に2回程度(6ヶ月に1回程度)	1
6 年に1回程度	2
7 1～6程頻繁ではないが、参加したことはある	3
有効回答	6
回答者数(Q18(0)で水防活動を選択)	6



Q18(1-4:川ざらい編)【Q18で<4>を選んだ方】川の管理活動にはどのくらいの頻度で参加してきましたか？

川ざらいをしたことがある人は全体の12.6%であり、その内の9割近くの人が年に1～2回程度の参加である。

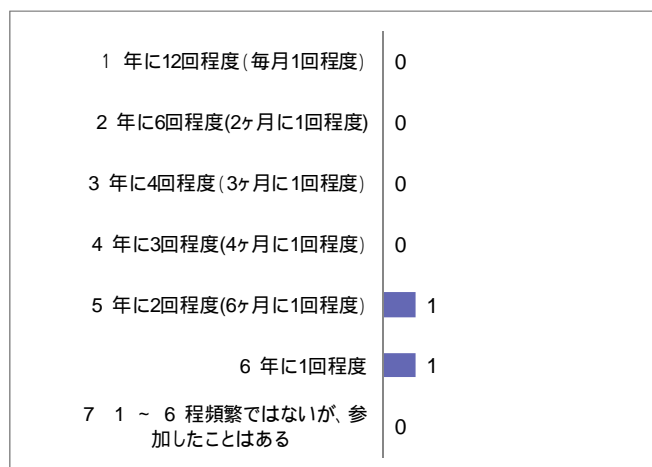
項目	人数
1 年に12回程度(毎月1回程度)	1
2 年に6回程度(2ヶ月に1回程度)	0
3 年に4回程度(3ヶ月に1回程度)	0
4 年に3回程度(4ヶ月に1回程度)	1
5 年に2回程度(6ヶ月に1回程度)	18
6 年に1回程度	9
7 1～6程頻繁ではないが、参加したことはある	2
有効回答	31
回答者数(Q18(0)で川ざらいを選択)	31



Q18(1-5:堤防の補修編)【Q18 で<5>を選んだ方】川の管理活動にはどのくらいの頻度で参加してきましたか？

堤防の補修をしたことがある人は全体の 0.8% (247 人中 2 人) であり、「年に 2 回程度参加」が 1 人、「年に 1 回程度参加」が 1 人となっている。

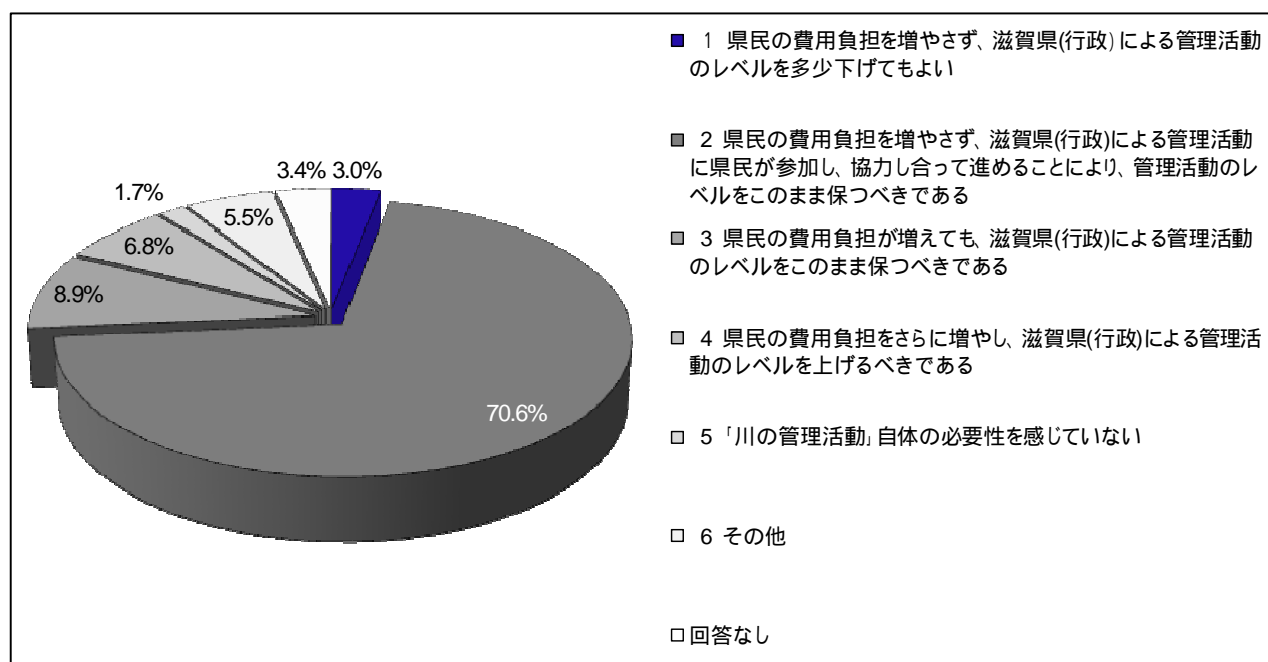
項 目	人数
1 年に 12 回程度(毎月 1 回程度)	0
2 年に 6 回程度(2ヶ月に 1 回程度)	0
3 年に 4 回程度(3ヶ月に 1 回程度)	0
4 年に 3 回程度(4ヶ月に 1 回程度)	0
5 年に 2 回程度(6ヶ月に 1 回程度)	1
6 年に 1 回程度	1
7 1 ~ 6 程頻繁ではないが、参加したことはある	0
有効回答	2
回答者数(Q18(0)で堤防の補修を選択)	2



Q19 川の安全性やより良い環境を維持していくためには、新たに施設の整備を進めていく必要があります。しかし、今後は新たに整備した施設も合わせて維持するには、さらに経費を必要とするため、現在の管理活動のレベルを保つことが困難となります。あなたは「川の管理活動」を今後どのように進めるのが良いと思いますか？ 下の<1>～<6>の中からあてはまるもの1つを選んでください。

「県民の費用負担を増やさず、滋賀県(行政)による管理活動に県民が参加し、協力し合って進めることにより、管理活動のレベルをこのまま保つべきである」と考える人が約 2/3 (67.2%) を占め、最も多い。

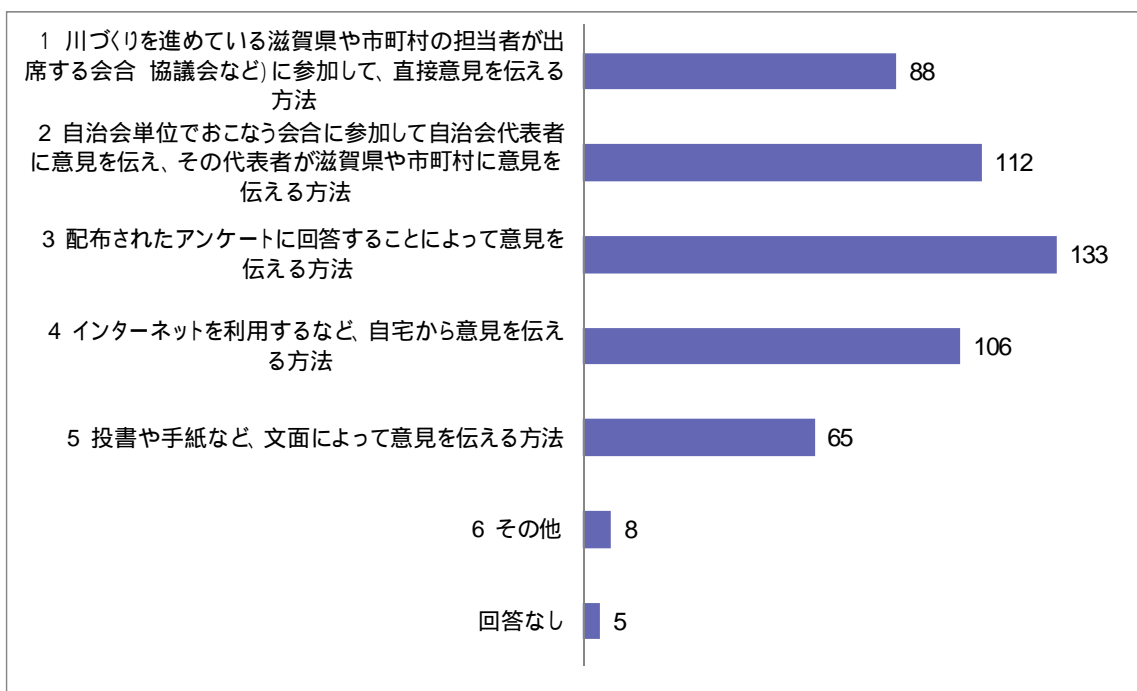
項目	人数	割合
1 県民の費用負担を増やさず、滋賀県(行政)による管理活動のレベルを多少下げてもよい	7	3.0%
2 県民の費用負担を増やさず、滋賀県(行政)による管理活動に県民が参加し、協力し合って進めることにより、管理活動のレベルをこのまま保つべきである	166	70.6%
3 県民の費用負担が増えても、滋賀県(行政)による管理活動のレベルをこのまま保つべきである	21	8.9%
4 県民の費用負担をさらに増やし、滋賀県(行政)による管理活動のレベルを上げるべきである	16	6.8%
5 「川の管理活動」自体の必要性を感じていない	4	1.7%
6 その他	13	5.5%
回答なし	8	3.4%
有効回答	233	
回答者数	247	



Q20 滋賀県(行政)の川に関する取組みに対して、県民の皆様のご意見をうかがう機会・方法として何が好ましいと考えますか？下の<1>～<6>の中から好ましいもの全てを選んでください。

「配布されたアンケートに回答することによって意見を伝える方法」が53.8%で最も多い。次いで僅差で「自治会単位でおこなう会合に参加して自治会代表者に意見を伝え、その代表者が滋賀県や市町村に意見を伝える方法」と「インターネットを利用するなど、自宅から意見を伝える方法」が多い。

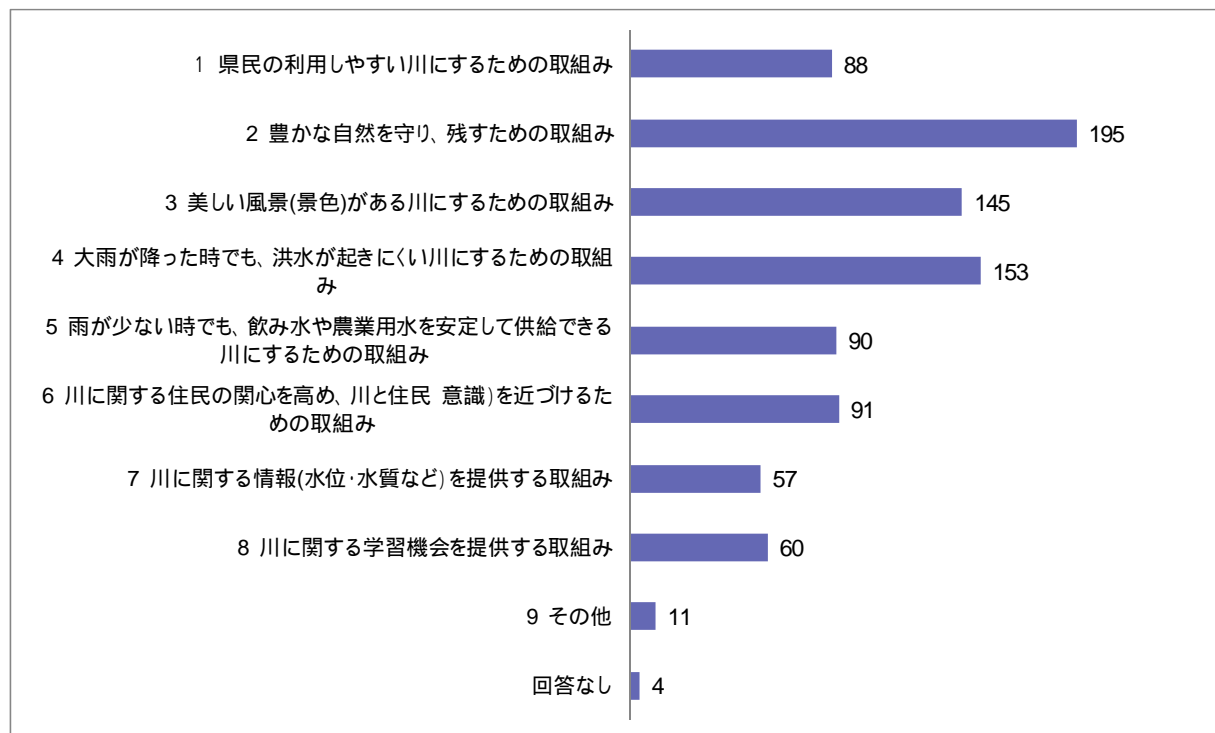
項 目	人数
1 川づくりを進めている滋賀県や市町村の担当者が出席する会合(協議会など)に参加して、直接意見を伝える方法	88
2 自治会単位でおこなう会合に参加して自治会代表者に意見を伝え、その代表者が滋賀県や市町村に意見を伝える方法	112
3 配布されたアンケートに回答することによって意見を伝える方法	133
4 インターネットを利用するなど、自宅から意見を伝える方法	106
5 投書や手紙など、文面によって意見を伝える方法	65
6 その他	8
回答なし	5



Q21 川に関わりのある豊かな生活を将来も続けていくために、あなたは滋賀県(行政)にどのような取組みに対して力を入れてほしいと考えますか？ 下の<1>～<9>の中から力を入れてほしいと考える取組み全てを選んでください。

「豊かな自然を守り、残すための取組み」を望む回答が78.9%で最も多く、次いで「大雨が降った時でも、洪水が起きにくい川にするための取組み」、「美しい風景(景色)がある川にするための取組み」の順で多くなっている。

項 目	人数
1 県民の利用しやすい川にするための取組み	88
2 豊かな自然を守り、残すための取組み	195
3 美しい風景(景色)がある川にするための取組み	145
4 大雨が降った時でも、洪水が起きにくい川にするための取組み	153
5 雨が少ない時でも、飲み水や農業用水を安定して供給できる川にするための取組み	90
6 川に関する住民の関心を高め、川と住民 意識)を近づけるための取組み	91
7 川に関する情報(水位・水質など)を提供する取組み	57
8 川に関する学習機会を提供する取組み	60
9 その他	11
回答なし	4

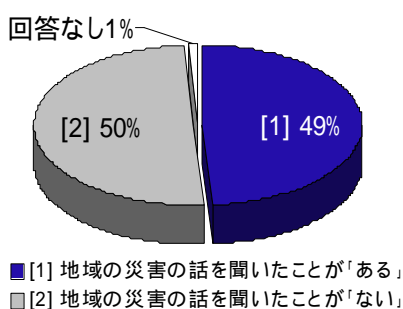


2. 豪雨災害に関する意識について(平成19年度調査)

「豪雨災害に関する意識について」アンケート結果まとめ(平成 19 年度調査:回答数 233)

【豪雨災害への危機感について】

過去に豪雨災害の被害を受けたり危険を感じたことのある人は約 4 割であり(問 4)、今住んでいるところの自然災害の話聞いたことがある人は、全回答者の約半数にのぼります(問 6)。

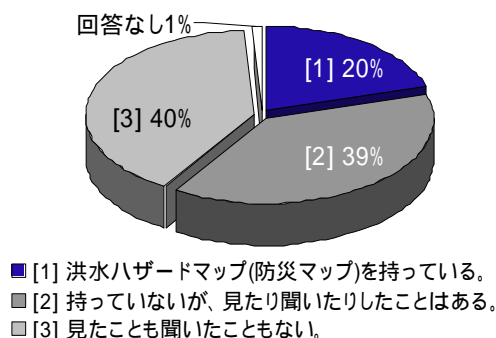


(問 4) 地域の災害経験について
(平成 16 年度調査 Q12 参照)

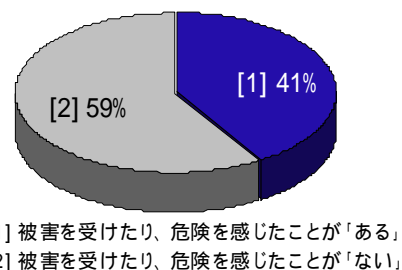
しかし一方で、今後 10 年以内に自宅が洪水の被害を受けると「思う」人は約 5%にとどまり、約 4 割の人が「全く思わない」と答えています(問 9)。「思う」理由で最も多かったのは「川の近くに住んでいるから」で、「地球温暖化で集中豪雨が増えているから」を挙げた人が次に多くなっています(問 10)。一方、「全く思わない」人の最も多い理由は、「今まで水害が起こっていないから」となっています(問 11)。

【水害等に関する情報について】

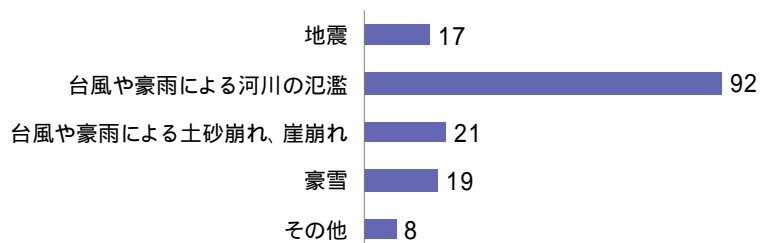
洪水ハザードマップを見たことも聞いたこともない人が約 4 割にのぼります(問 12)。また、災害に関する情報のうち、はん濫注意報や洪水予報、水防予報の認知度が低い結果となっています(問 13)。



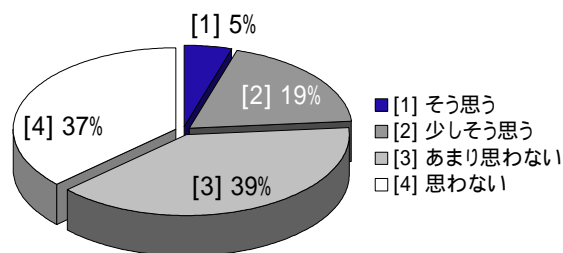
(問 12) 洪水ハザードマップの認知度について



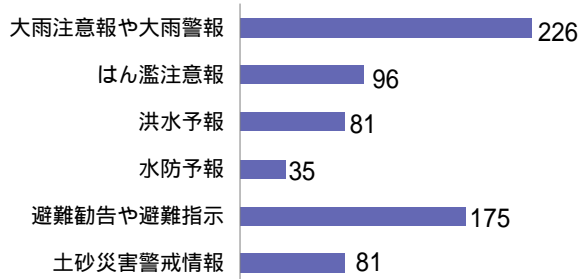
(問 4) 自身の水害経験
(平成 16 年度調査 Q10 参照)



(問 6) 地域で経験した災害の種別



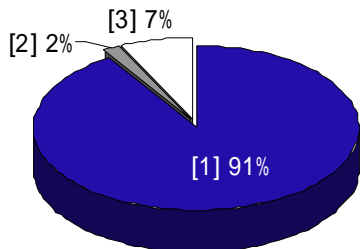
(問 9) 水害の危険性の認識について
(平成 16 年度調査 Q16 参照)



(問 13) 災害情報の認知度について

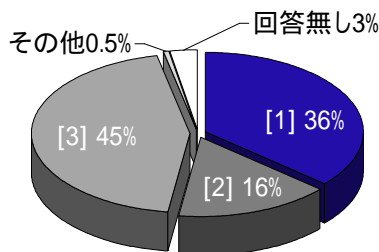
【防災のための土地利用制限について】

洪水の被害を少なくするため、土地利用の制限を行うことは「やむを得ない」と考えている人が9割を超えています(問 14)。制限の内容としては、「情報提供により土地利用を誘導する方法」がよいと考えている人が最も多いですが、僅差で「浸水の危険性が高いところへの居住制限制度を作る」方法を支持する回答が多くなっています(問 15)。



- [1] 被害を少なくするための制限なら、やむを得ない。
- [2] 制限はすべきではない。
- [3] わからない。

(問 14) 土地利用の制限の是非について

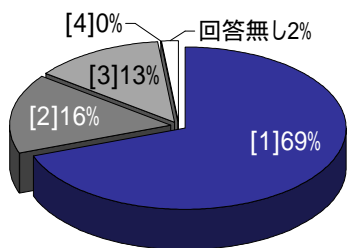


- [1] 水害の危険性に応じて土地利用を制限し、浸水の危険性が高い場所には住まないような制度を作る。
- [2] 水害の危険性に応じて建築の構造を制限し、万一浸水したとしても被害が少なくなるような制度を作る。
- [3] 水害の危険性が高い場所を示す地図などを積極的に公表することにより、危険性が高い場所には住まないよう土地利用を誘導する。

(問 15) 土地利用を制限する方法について

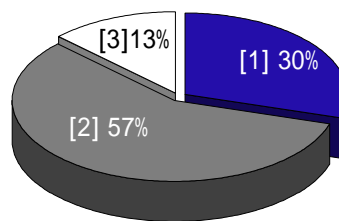
【洪水への備えについて】

避難勧告が出たら直ちに避難すると答えた人が約7割にのぼっています(問 17)。一方、水害や土砂災害に備えた保険に加入している人は3割程度という結果となっています(問 18)。



- [1] すぐに避難する。
- [2] 近所の人や避難を始めたなら避難する。
- [3] 自宅の周辺に危険が迫ってきたら避難する。
- [4] 避難しない。

(問 17) 避難勧告があった場合の行動について

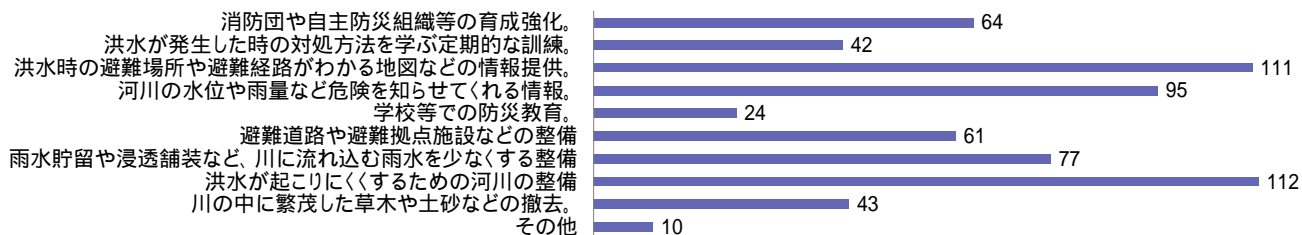


- [1] 水害・土砂災害に備えた保険に「入っている」。
- [2] 水害・土砂災害に備えた保険に「入っていない」。
- [3] わからない。

(問 18) 水害・土砂災害に備えた保険への加入について

【今後の治水整備について】

これからの治水整備については、河川改修工事のハード整備と合わせて災害に関する情報の提供を望む声が多くなっています(問 19)。



(問 19) 行政に望む取り組みについて
(平成 16 年度調査 Q17 参照)

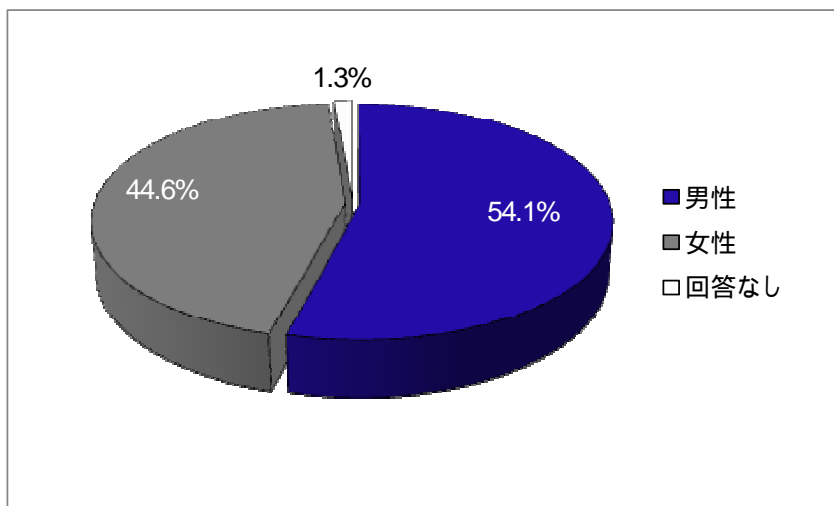
留意事項

本概要版の回答項目の標記は、実際のアンケート時の回答項目を一部簡略化して標記しています。

2 豪雨災害に関する意識についてのアンケートの集計結果

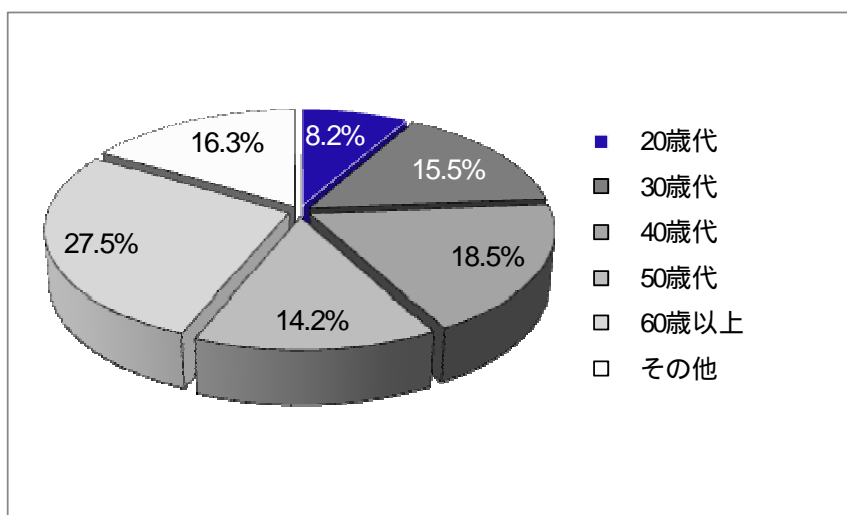
問1 あなたの性別を教えてください。

項目	人数	割合
男性	126	54.1%
女性	104	44.6%
回答なし	3	1.3%
回答者数	233	



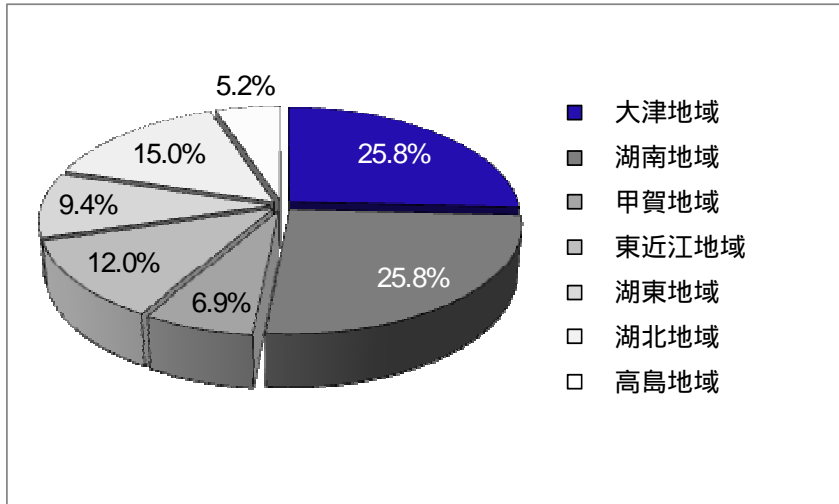
問2 あなたの年齢を教えてください。

項目	人数	割合
20歳代	19	8.2%
30歳代	36	15.5%
40歳代	43	18.5%
50歳代	33	14.2%
60歳以上	64	27.5%
その他	38	16.3%
回答者数	233	



問3 あなたのお住まいの地域を教えてください。

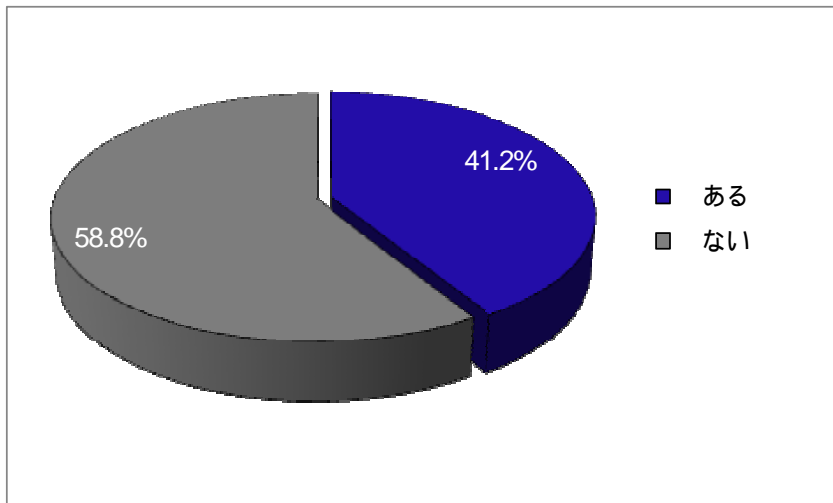
項目	人数	割合
大津地域	60	25.8%
湖南地域	60	25.8%
甲賀地域	16	6.9%
東近江地域	28	12.0%
湖東地域	22	9.4%
湖北地域	35	15.0%
高島地域	12	5.2%
回答者数	233	



問4 近年全国各地で水害や土砂災害が発生していますが、あなたは過去に豪雨(台風を含む)によって被害を受けたり、危険を感じたりしたことはありますか。(は1つだけ)

豪雨による被害を受けたり、危険を感じたことが「ある」人が41.2%にのぼる。

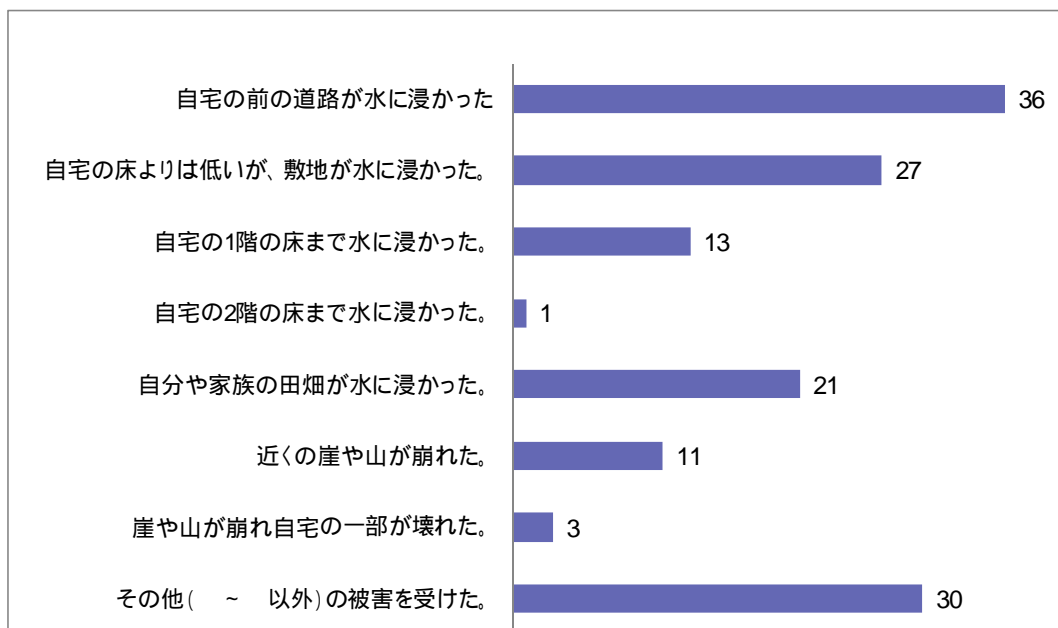
項目	人数	割合
ある	96	41.2%
ない	137	58.8%
回答者数	233	



問5 【問4で「ある」と答えた方へ】その時の状況はどのようなものでしたか。(はいくつでも)

「自宅の前の道路が水に浸かった」人が25.3%で最も多く、次いで「自宅の床よりは低い
敷地が水に浸かった。」人(19.0%)が多い。家屋浸水(1階もしくは2階の床まで
水に浸かった)の被害を受けた人は、9.9%である。

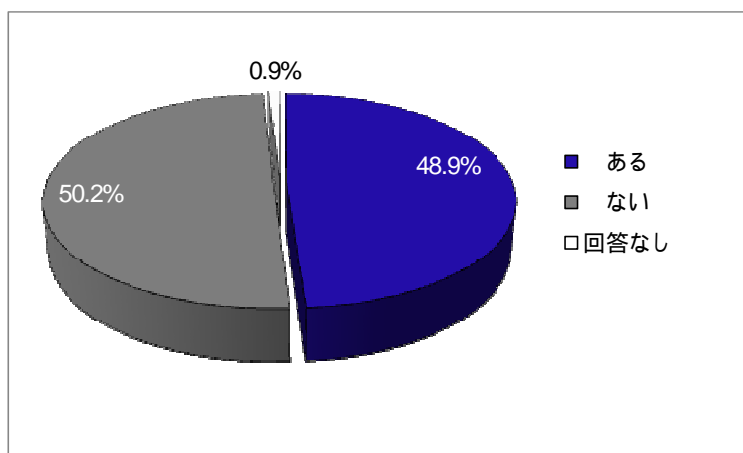
項 目	人数
自宅の前の道路が水に浸かった	36
自宅の床よりは低い敷地が水に浸かった。	27
自宅の1階の床まで水に浸かった。	13
自宅の2階の床まで水に浸かった。	1
自分や家族の田畑が水に浸かった。	21
近くの崖や山が崩れた。	11
崖や山が崩れ自宅の一部が壊れた。	3
その他(~ 以外)の被害を受けた。	30



問6 あなたは今住んでいる地域で起きた過去の自然災害(被害)の話を、人から聞いたことがありますか。(は1つだけ)

48.9%の人が過去の洪水(被害)の話を聞いたことがあると回答している。

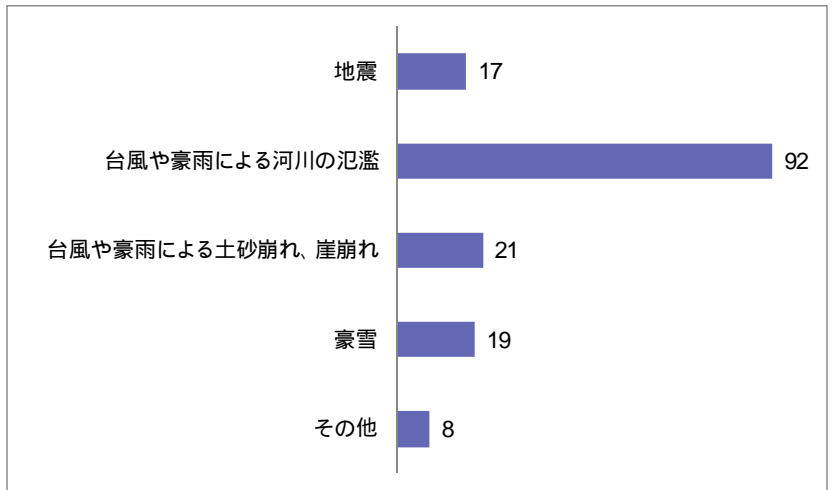
項目	人数	割合
ある	114	48.9%
ない	117	50.2%
回答なし	2	0.9%
回答者数	233	



問7 【問6で「ある」と答えた方へ】それはどのような自然災害ですか。(はいいくつでも)

「台風や豪雨による河川の氾濫」が最も多い(58.6%)

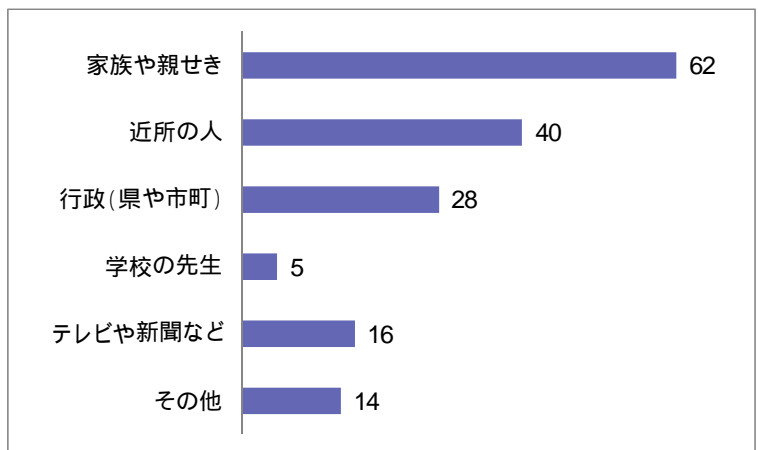
項目	人数
地震	17
台風や豪雨による河川の氾濫	92
台風や豪雨による土砂崩れ、崖崩れ	21
豪雪	19
その他	8



問8 【問6で「ある」と答えた方へ】それは誰から聞いた話ですか。(はいいくつでも)

「家族や親せき」から話を聞いた人(37.6%)が最も多い。次いで「近所の人」(24.2%)、「行政」(17.0%)の順に多い。

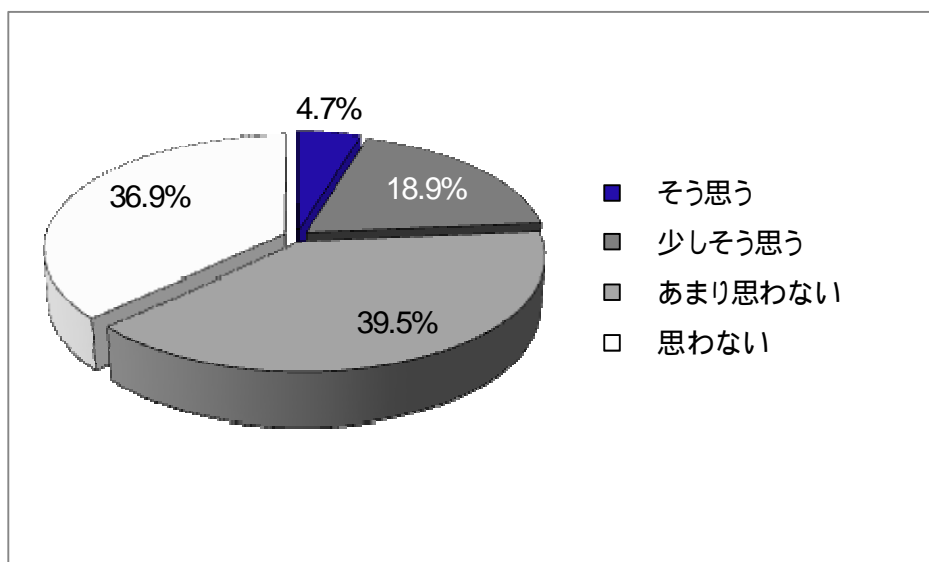
項目	人数
家族や親せき	62
近所の人	40
行政(県や市町)	28
学校の先生	5
テレビや新聞など	16
その他	14



問9 あなたは、今お住まいの家が今後10年以内に洪水による被害を受けますか。
(は1つだけ)

洪水による被害を受けると「思わない」人が 36.9%にのぼり、「あまり思わない」人を合わせると 76.4%となる。「そう思う」人は 4.7%である。

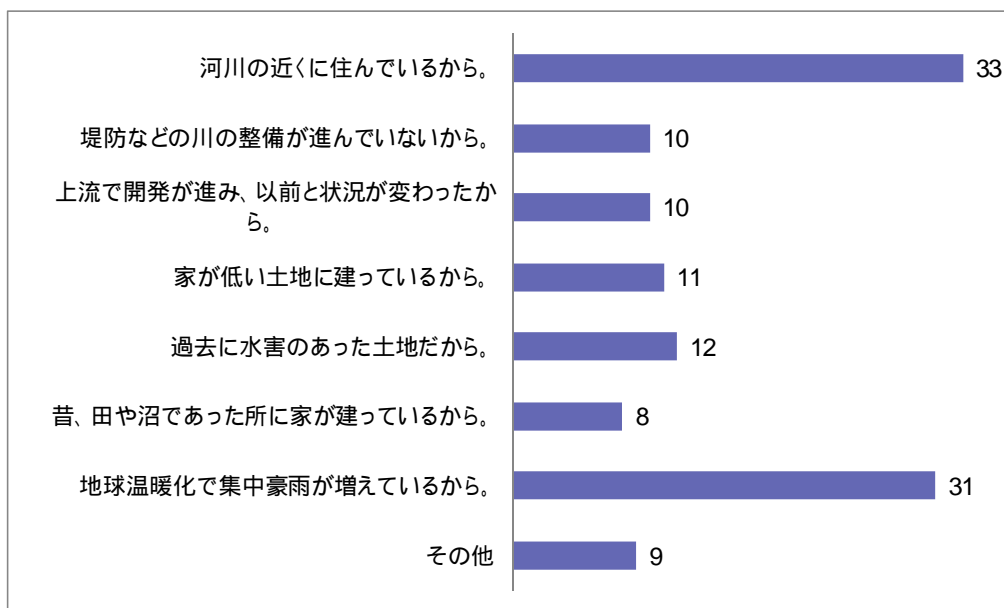
項 目	人数	割合
そう思う	11	4.7%
少しそう思う	44	18.9%
あまり思わない	92	39.5%
思わない	86	36.9%
回答者数	233	



問 10【問9で「そう思う」と答えた方へ】そう思われるのは、どのような理由からですか。
(はいくつでも)

「河川の近くに住んでいるから」との理由(26.6%)が最も多い。次いで僅差で「地球温暖化で集中豪雨が増えているから」(25.0%)という理由が多くなっている。

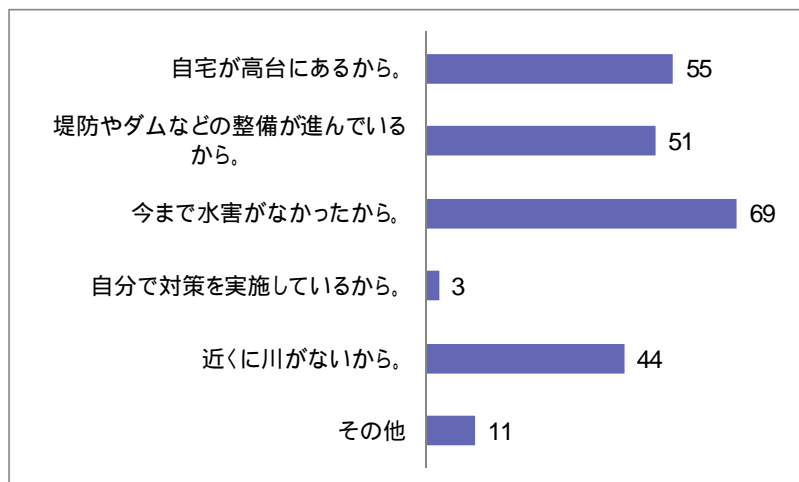
項 目	人数
河川の近くに住んでいるから。	33
堤防などの川の整備が進んでいないから。	10
上流で開発が進み、以前と状況が変わったから。	10
家が低い土地に建っているから。	11
過去に水害のあった土地だから。	12
昔、田や沼であった所に家が建っているから。	8
地球温暖化で集中豪雨が増えているから。	31
その他	9



問 11【問9で「思わない」と答えた方へ】そう思われるのは、どのような理由からですか。
(はいくつでも)

「今まで水害がなかったから」との理由(29.6%)が最も多い。次いで「自宅が高台にあるから」(23.6%)、「堤防やダムなどの整備が進んでいるから」(21.9%)の順で多くなっている。

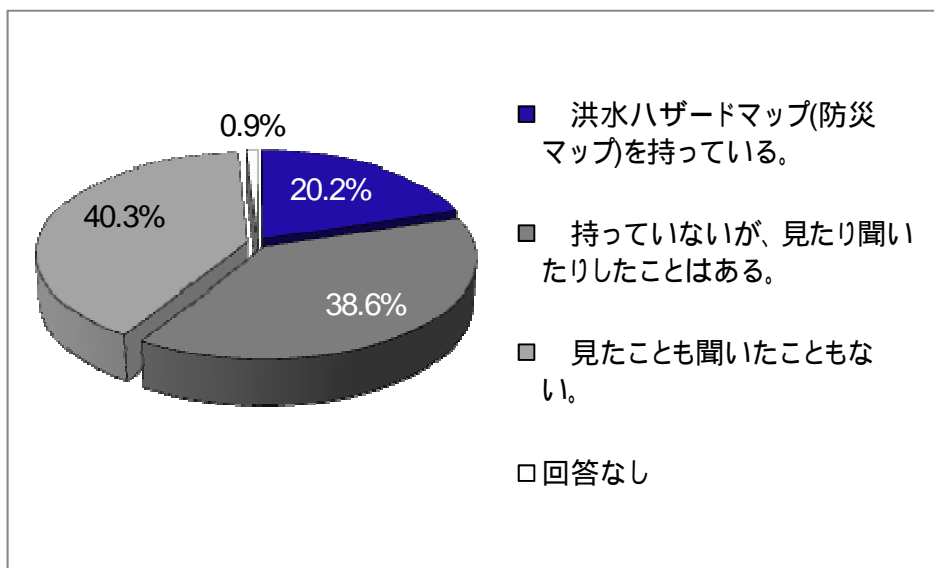
項 目	人数
自宅が高台にあるから。	55
堤防やダムなどの整備が進んでいるから。	51
今まで水害がなかったから。	69
自分で対策を実施しているから。	3
近くに川がないから。	44
その他	11



問12 浸水が予想される区域を示すものとして、「浸水想定区域図」や「洪水ハザードマップ(防災マップ)」がありますが、あなたはこのような図面を見たり、聞いたりしたことはありますか。(は1つだけ)

「見たことも聞いたこともない」人(40.3%)が最も多い。「洪水ハザードマップ(防災マップ)を持っている」人は20.2%である。

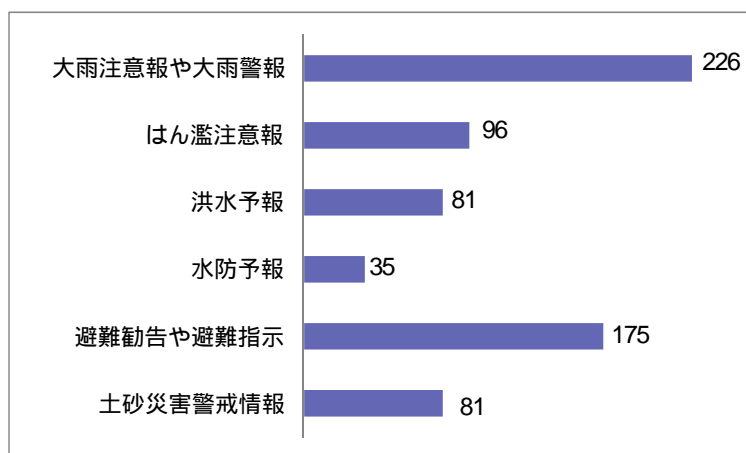
項目	人数	割合
洪水ハザードマップ(防災マップ)を持っている。	47	20.2%
持っていないが、見たり聞いたりしたことはある。	90	38.6%
見たことも聞いたこともない。	94	40.3%
回答なし	2	0.9%
回答者数	233	



問13 水害や土砂災害の発生する危険性が高くなった時に出る情報のうち、あなたが知っているものすべてに をしてください。(はい/いつでも)

「大雨注意報や大雨警報」(32.6%)が最もよく知られており、次いで「洪避難勧告や避難指示」(25.2%)が知られている。最も知られていない情報は「水防予報」(5.0%)である。

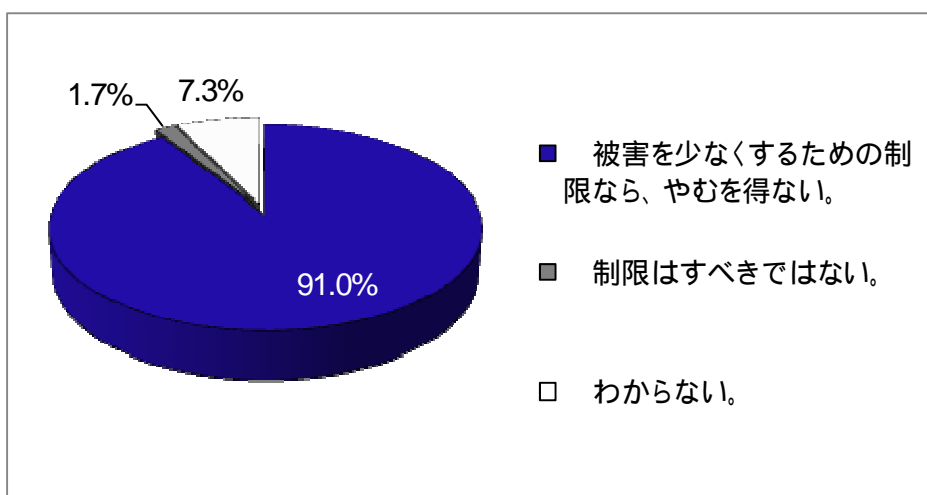
項目	人数
大雨注意報や大雨警報	226
はん濫注意報	96
洪水予報	81
水防予報	35
避難勧告や避難指示	175
土砂災害警戒情報	81



問 14 水害による被害を出来るだけ少なくする方法として、上流の農地や森林の開発を制限したり、下流の低地に建物を建設しないよう制限することが考えられますが、あなたはこのような土地の利用制限についてどう思いますか。(は1つだけ)

「被害を少なくするための制限なら、やむを得ない」と考えている人が9割を超える(91.0%)。

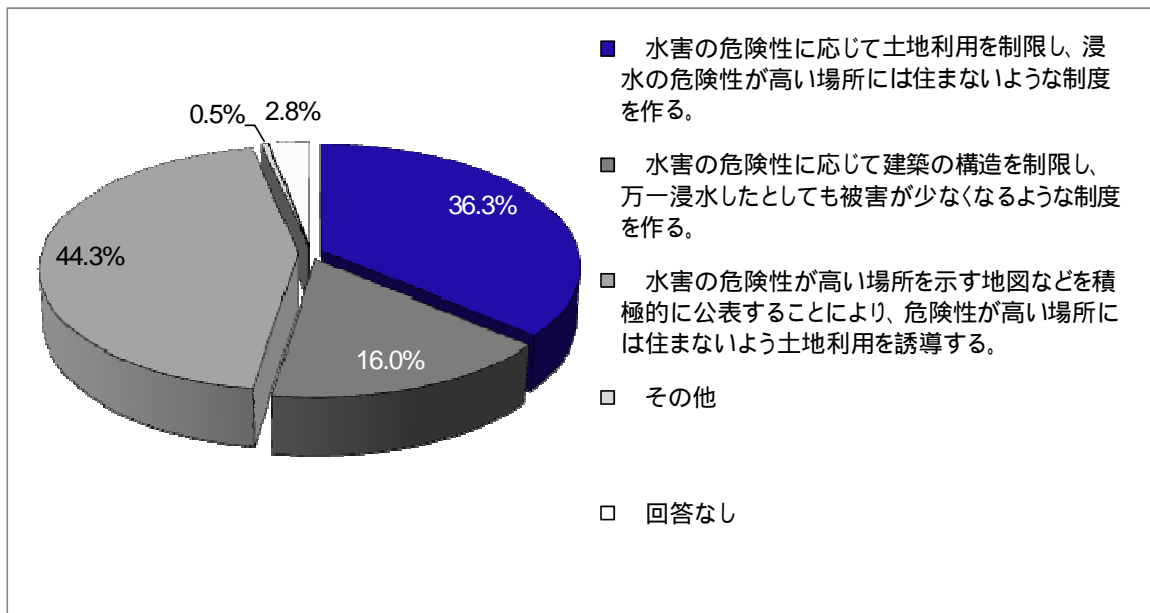
項 目	人数	割合
被害を少なくするための制限なら、やむを得ない。	212	91.0%
制限はすべきではない。	4	1.7%
わからない。	17	7.3%
回答者数	233	



問15【問14で「やむを得ない」と答えた方へ】土地の利用制限を強めるためにはどうしたらよい
 と思いますか。この中からあなたの考えに近いものに をしてください。(は1つだけ)

「水害の危険性が高い場所を示す地図などを積極的に公表することにより、危険性が高い場所には住まないよう土地利用を誘導する」方法がよいと考えている人(44.3%)が最も多い。

項 目	人数	割合
水害の危険性に応じて土地利用を制限し、浸水の危険性が高い場所には住まないような制度を作る。	77	36.3%
水害の危険性に応じて建築の構造を制限し、万一浸水したとしても被害が少なくなるような制度を作る。	34	16.0%
水害の危険性が高い場所を示す地図などを積極的に公表することにより、危険性が高い場所には住まないよう土地利用を誘導する。	94	44.3%
その他	1	0.5%
回答なし	6	2.8%
回答数合計	212	



問 16[問 14 で「すべきではない」と答えた方へ]すべきではないと思う理由はなんですか。この中からあなたの考えに近い方に をしてください。(は1つだけ)

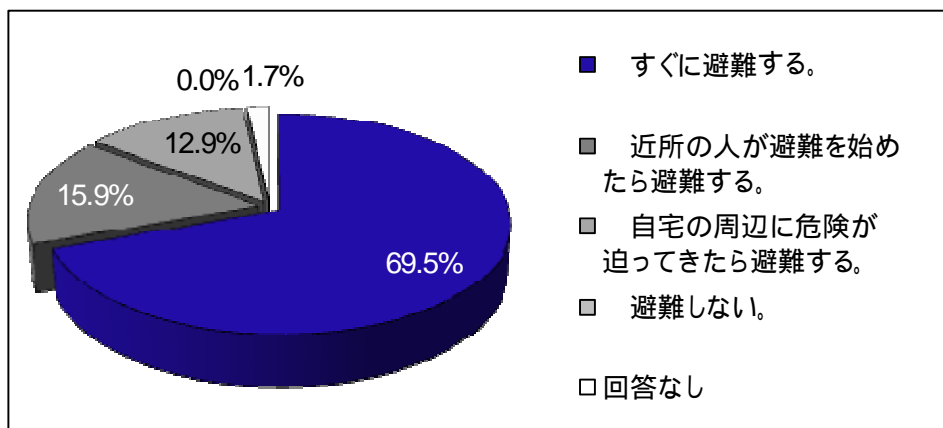
「土地の利用制限をすべきではない」と回答した人は 233 人中 4 人であり、「個人の財産を制限すべきではないから」との理由が 2 人、「現在の制度で十分だから」と回答した人が 1 人である。

項 目	人数	割合
現在の制度で十分だから。	1	25.0%
個人の財産を制限すべきではないから。	2	50.0%
被災した場合でも個人が責任を負えばよいから。	0	0.0%
その他	1	25.0%
回答数合計	4	

問 17 水害や土砂災害の危険が高くなり、市町から避難勧告が出された場合、あなたはどのような行動をとると思いますか。この中からあなたの考えに近い方に をしてください。(は1つだけ)

約 7 割 (69.5%) の人が、避難勧告が出されたら「すぐに避難する」と答えている。

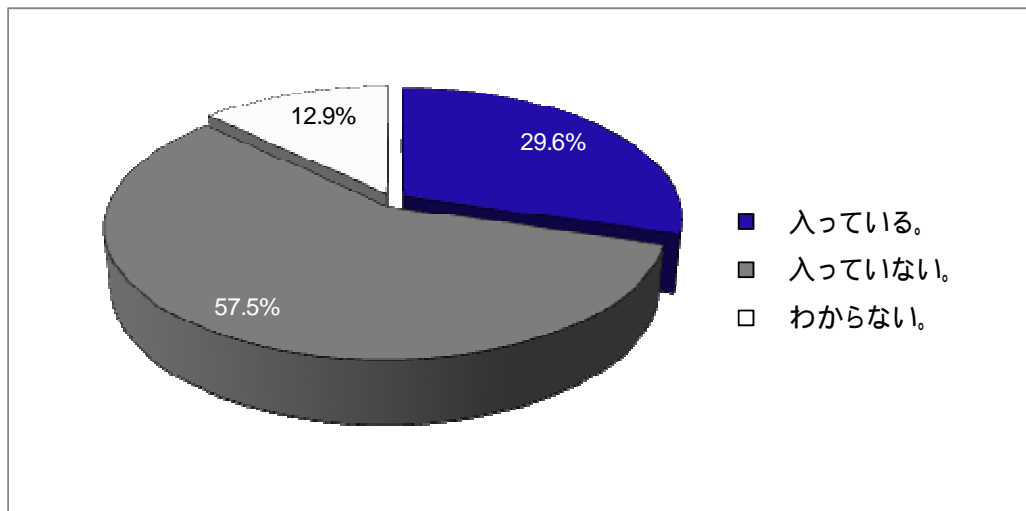
項 目	人数	割合
すぐに避難する。	162	69.5%
近所の人が始めたら避難する。	37	15.9%
自宅の周辺に危険が迫ってきたら避難する。	30	12.9%
避難しない。	0	0.0%
回答なし	4	1.7%
回答者数	233	



問18 あなたは水害や土砂災害に備えた保険(住宅総合保険等)に入っていますか。
(は1つだけ)

57.5%の人が、住宅総合保険に加入していない。「入っている」人は29.6%である。

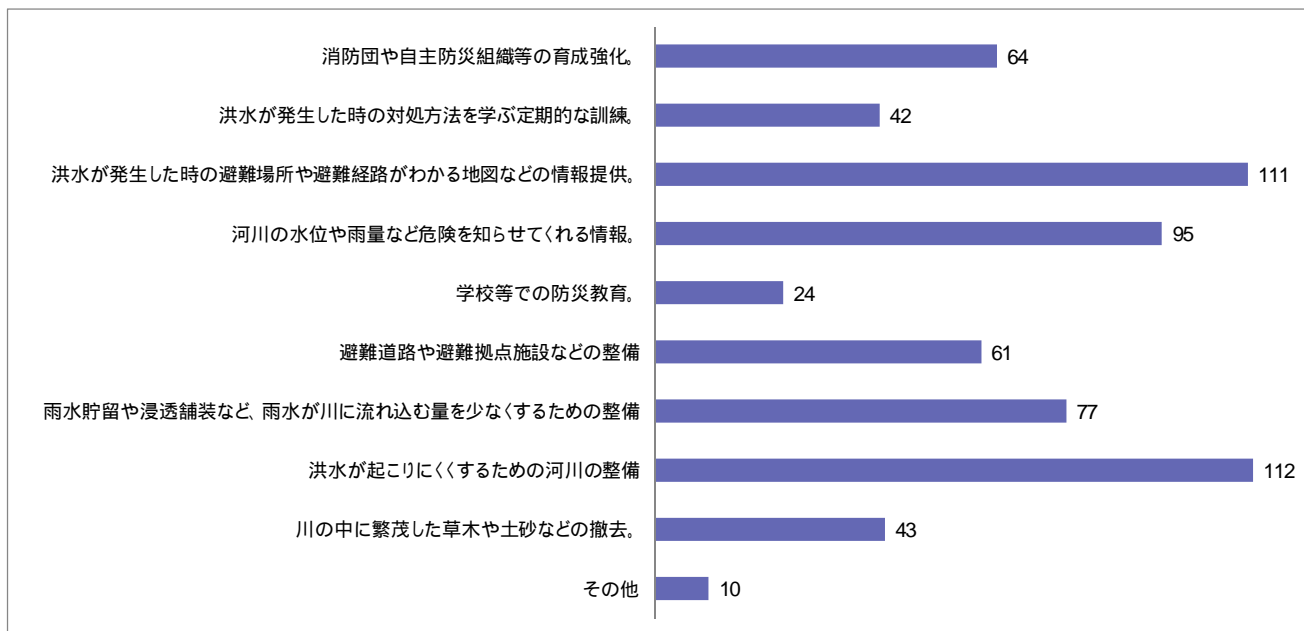
項 目	人数	割合
入っている。	69	29.6%
入っていない。	134	57.5%
わからない。	30	12.9%
回答者数	233	



問19 洪水から命や財産を守るため、あなたは県や市町の行政に対してどのような取り組みを望みますか。下の中から重視して進めるべきと考えるものを3つ選んでください。
(は3つ)

「洪水が起こりにくくするための河川の整備」と「洪水が発生した時の避難場所や避難経路がわかる地図などの情報提供」を望む回答がほぼ同じ割合で最も多い。次いで、「河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報」を望む声が多い。

項 目	人数
消防団や自主防災組織等の育成強化。	64
洪水が発生した時の対処方法を学ぶ定期的な訓練。	42
洪水が発生した時の避難場所や避難経路がわかる地図などの情報提供。	111
河川の水位や雨量など危険を知らせてくれる情報。	95
学校等での防災教育。	24
避難道路や避難拠点施設などの整備	61
雨水貯留や浸透舗装など、雨水が川に流れ込む量を少なくするための整備	77
洪水が起こりにくくするための河川の整備	112
川の中に繁茂した草木や土砂などの撤去。	43
その他	10



問20 水害や土砂災害の被害を少なくするため、個人や地域ではどのようなことに留意する必要があると思いますか。あなたの自由な意見をお書きください。

	性別	年代	地域	意見
1	女性	40代	大津	現在、地域の組織として自治会があるけれども、自治会費をとられるだけで全く役にたたないから自治会に入っていない人が多い。共働きが多く、生活時間もまちまちなため、自治会活動なんかもうできないだろうけど、なにかあった時、たよりにするのは地域のつながりらしい。自治会費を払っているかどうかではなく、納税者はすべて地域防災組織の会員とし、皆に携帯電話でも持ってもらってそれで連絡をとる、とでもすればなんとかなるのではないかな。
2	男性	60以上	甲賀	・低地で災害のおそれのある所を公表する。 ・排水路の清掃 ・排水路の整備(県、市町)
3	男性	その他	東近江	毎年、日本のどこかで大被害がでて、人命や家屋、道路、堤防の大破損があり、災害日本の汚名は一向に減らない。 すでに危険地域は測量済だが、先手が打てない。そのため2～3日の集中豪雨で人命や家屋、鉄道、道路など大破損、復旧には長期間の年月、労力、費用、また、その期間、住民は避難、仮設住宅、数年、現地へもどれない地域もあるとか…。予知避難は進化しているが、災害の被害は大きく、減っていない。地震、火事と共に水害対策の先手を望む。
4	男性	40代	湖南	危険地域を住民が自ら調査して、対策を話合う
5	男性	その他	湖南	地震、水害等災害情報の提供・防災組織の育成・定期訓練も大切だが、それ以前に各学区、各町内会別の防災マップによる避難場所を行政によって立看板を各学区、各町内会に設置する。各町内会に於いて1人で避難できぬ老人、障害者、病人等の避難困難者リスト作成と保管を望みます。
6	女性	40代	湖南	以前阪神大震災があつてから「耐震性のある家」ということで新築時に気をつける人が多くなった。 水害、土砂災害も建物の強度によってもかなり被害が異なると思うので新築の際には建てる場所と同時に建物の形、材料等々気をつける必要があると思う。住宅メーカーの方でも色々工夫してもらいたいので、是非県からの指導望む。
7	女性	40代	東近江	河川の近くや低地に住んでいる場合はいつでも避難できるよう日頃から持ち出し袋などの準備をしておく。子供たちともどこで落ち会うか避難場所を決めておく。
8	男性	その他	湖北	防災にも関係するが、高齢化にともない、独居の人たちが増加する。又、団地に関していえば街全体が(団地単位)老化していく。この現状から考えて街全体で非常時に対する連絡網、受けたところからすぐ対処できる体制を整えることが大切かと思う。夜間見まわりもその時間のみの予防はできる。しかし、その時間はずればなにもできない。防災に関しても同じ。防災マップはあるが、その経路が決めてあるが、果たして老人がその経路を歩くことができるか問題のあるように思える。街全体で強力な支援体制を作り上げていかなければならないが、行政としてなにができるか？完全な体制は無理としてもなにかしなくては…。 もう何十年も昔。藤沢の「クゲヌマ」の叔父のところに住んだことがあった。当時、ここでは近所何軒かが連携して夜間定時で異常のないことをベル連絡を自主的にやっていた。連絡ベルは毎日に順番を決めて、ベルの鳴らす回数も決めて連絡をとっていたことを思い出しました。

	性別	年代	地域	意見
9	男性	その他	湖南	<p>豪雨災害で一番大切な事は人の命を守る事であると思います。米原市、旧近江町には近江地域防犯安全パトで防犯と安全を小学校単位で作りましたが、大切な地域の人々および子どもの親の目が入っておりません。</p> <p>そこで「NPOいきいきおうみ」ではこれに防災を入れてマップを各集落ごとに作っています。マップを作るのは結果であってその中ででてきた問題をいかに解決するかにあります。</p>
10	男性	50代	大津	<p>危険箇所については市、町、県が積極的な改善を試みるか、付近住民の転居などを促し、場合によっては補助金を出すことも考えても良いと思う。</p>
11	男性	60以上	大津	<p>県の考えている事の財政的な裏付けはあるのか？口を開けば財政難だ。金がないという事なのにアンケートに取るようなことが出来るのか？県民の意見をとりあえず聞いておきたいセレモニー的な事なら協力をしない。金がないから全部出来ないとか10分の1位なら出すとか小さい事を言っているのなら最初からなにもやらない事も一つの方法ではないか？</p>
12	女性	30代	大津	<p>洪水をおこさない土地造りが必要。無用にコンクリートに頼って自然を壊す事をやめる。人造のものでは、自然にはたうちできない。</p>
13	男性	60以上	湖南	<p>地域住民が自分達の周囲に危険な箇所がないか、いつも注意を払い、気が付いた事は即刻行政に連絡を取る。また受けた行政は予算云々はさておき素早い対応をすること。この対応の仕方に住民は敏感に反応するもので、今後の情報提供に大きく影響するものと承知しておいてほしい。</p>
14	女性	40代	湖南	<p>住宅地をふやさない。田が水を保つことを重視してほしい。上にも書いたが、固定されていない看板や自転車がとても危険だと思う。山の整備、木の管理、保水力のある山づくり。</p>
15	女性	50代	東近江	<p>自治会などの団体を中心とした災害がおこった時の自警団活動の徹底教育、訓練。地域の人が団結して自分の地域を守るための組織作りが必要であると思います。</p>
16	男性	30代	東近江	<p>ハザードマップを全戸に配布すべし。</p>
17	女性	60以上	湖南	<p>避難勧告が出された場合には、特に子供や老人は速やかにひなんすることが大切だと思います。</p> <p>又田畑が水に浸かったような時、よく老人が見回りに行って被害にあうということもよく聞きますが、個人でも自分の行動については慎重な態度が求められると思います。</p>
18	女性	40代	湖東	<p>崖とかに家を建てない。なるべく川より高いところに家を建てる。土砂災害にあっても被害を受けない家を建てる。皆で助け合う。</p> <p>財産は絵とかじゃなく、水にぬれても大丈夫な金銀にする。</p> <p>水にぬれてもおちこまないでいいように安物の服を買う。あまりぜいたくな暮らしをしない。</p>
19	女性	50代	大津	<p>こまめに枯れ葉などの撤去。ご近所での声かけ。</p>
20	男性	その他	甲賀	<p>丘陵地(丘山)や森林の自然放置(手入れをしない)等のために高台での土砂災害、低地への鉄砲水等の水害、土砂災害が増えていると思う。まず、住宅地近くの里山、森林の治水、高台の土砂災害を防ぐ砂防。いっきの増水が出ない雨水溜池。浸水性の道路等々の対策が必要。個人ではその力は少なく、地域全体で危機意識を共有し対応を考えないといけないと思う。'森林を守る'ことは自然環境を守るだけでなく、大きく治水に役立っていることを強く認識され、行政がもっと力を入れてほしい。造林公社は債務超(負債)というが -。</p>

	性別	年代	地域	意見
21	男性	60 以上	湖南	現住の近くに農業用あるいは防火用の河川開閉堰があるが、大雨が降っても(台風時の洪水予報が出ていても)堰を閉った状態で水が川をあふれんばかりになると管理者(地区)農家の当番が慌てて堰を開けにやってくるが一気にあふれた水を下流に流すと2次災害が出るのではといつも心配しているが、県等が大雨注意報が出れば、市あるいは町等に水門等の送水を(堰を開けておく)やっておくよう指導等が必要であると思う。
22	女性	50 代	大津	森林の保護、乱開発の阻止そして実際に危険が迫った際の避難場所の再確認等、必要だと思います。 日本は自然災害の多い国ですから常に防げる手だてを個人が意識し、自治体、国は被害を最小限にするよう、河川の整備等進めていただきたいです。
23	男性	その他	湖北	個人・家族はもちろん地域での防災活動につとめる。お互いに見守り、助け合い、支え合う自助・共助に取り組む必要がある。
24	-	40 代	湖南	個人や地域レベルでは経済的に限界があると思う
25	男性	60 以上	湖南	天井川の多い湖南地域においては、流域の危険アセスメントなしに、あるいは行政の施策怠慢のままに土地開発が進んでしまった。個々や地域で対応出来るレベルを越えてしまっている。せいぜい都市型水害など新しい問題の周知を支援するに止まる。
26	男性	その他	湖北	1. 自主防災組織の育成強化。特にショッピング等で近辺にくわしく情報が入りやすい動きをしている主婦や、家に居ることの多い高齢者が自治会の若年層に依存してしまわない自主組織が必要。 2. 私の地域は、新河川が整備され、まず水害の心配は少なくなったが、山中の過疎地域が増加している。土砂災害の危険性を高齢者によく認知させるための情報提供は大切。特に合併によって行政区域が広がったので盲点が出やすい。
27	男性	その他	湖南	洪水など発生しないため河川の溝などの掃除点検が大切です。 鉄道情報などについて警報の知らせがあった時はよく注意すべきである。
28	男性	その他	高島	情報伝達を早くミスなく行うための体制作りを十分行っていく必要がある。
29	女性	40 代	湖東	問 15 の土地利用制限に関しては上流の農地や森林の開発(乱開発?)等の対策をまずきちんとすべきで、下流対策はそれからと思います。上流対策をしなければ、下流制限をしても同じです。山の保全をして下さい。
30	女性	50 代	湖北	高齢化の進んだ地域では洪水が発生したからといってすぐに避難できないので、近所の助け合いが必要。
31	女性	40 代	大津	継続的な訓練は重要ですが、万一の時には冷静な行動が難しいと思います。やはりインフラの整備を行うことで、災害に強い街づくりを行うことが不可欠ではないでしょうか。
32	女性	60 以上	湖北	問 19 で に記入しましたが、地域の中で自主防災組織を作り地域住民が自ら守ることだと思います。これらの指導は行政がすべきですが、財政難の中 1、2、3、4、5 等は自主防災組織のマニュアル作成時に自治会等ですべきではないでしょうか。安全で安心して暮らせる町づくり(地域づくり)として、防災・防犯に地域住民が参加することだと思います。日中、地域にいない人たちで組織するのではなく、昼間は地域にいる者で、夜や休日は地域にいる者で互助精神で組織する事が大切だと感じております。

	性別	年代	地域	意見
33	男性	60 以上	湖東	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には「自分の命や財産は自分で守る」を基本に災害への備え(情報収集方法、避難経路、避難場所の確認、ハザードマップでの確認、災害が起こりそうな場所の認知、防災対策等)を日頃から自分自身のものとして或いは家族で行うこと。 ・地域的には防災組織(消防、自主防災会等)の強化を図るとともに地域ぐるみでの防災勉強会、防災訓練等を行う。
34	女性	その他	湖北	<ul style="list-style-type: none"> ・森林資源を大切にする様に心がける ・災害が起こった場合の避難方法を考えておく事。情報を早く伝達できる様、どうすれば良いか
35	男性	その他	東近江	県民1人1人の自己責任としての平素の準備と心構えが先決
36	男性	60 以上	大津	洪水の発生予想や対応策について、行政と住民が情報の共有をすること
37	男性	60 以上	湖北	土砂が堆積した河川の管理について行政と住民が意見を出し合い、協力する体制をつくる。川底に柳の木が繁り、ヨシが繁茂している河川をどうしたらいいのか、専門家の話を聞きたい。個人、地域で活動したり留意するにも河川管理のあり方が判らないままでは住民が活動しようにも何をしたらいいのか分からない。
38	女性	20 代	湖北	様々な「整備」はお金がかかるだけではなく、それによって自然が破壊されたり、資源不足に拍車がかかってしまいそうであり賛成できない。それよりも住民等の意識を高めていくのが良いと思う。
39	男性	20 代	高島	「水害がいつおきてもおかしくない」と思っておかなければならないと思う。
40	男性	60 以上	大津	自然条件(気候変動、自然地の改変)と社会条件(産業や居住)に伴い、水害の現象が、場所及び規模に変化を来していることはこの10年間の全国的な現象を見ても解る。それゆえ、いつどこで何が起きるかということ、予測解明にその備えをする必要がある。よって起こるであろうデータを共通の資料として個人や地域が十分認識しておく必要がある。(地域防災活動の徹底もその一環と考える。)
41	男性	その他	大津	<ul style="list-style-type: none"> 地域の危険地域を行政と協議して確定し、緊急時の避難場所及びその訓練を行政と地域が共同で行い組織体制を確立する。 行政と地域が共に危険性を排除又は軽微にするための改善を知恵を出し合い被害を少なくする体制づくりをする。
42	男性	60 代	東近江	もっと農地を大事にし、土堤等にも植樹を増やすべき。
43	女性	30 代	湖南	過去にひどい被害のあった地域の情報は欲しい
44	男性	その他	大津	自分自身の判断でなるべく情報を集め、事前に避難行動を取る。(自宅の周辺に危険が迫ってきた時)
45	女性	40 代	大津	日頃から地域の河川の整備をしておく。情報を伝え合う地域のコミュニケーションが大切
46	男性	40 代	湖北	専門者に地理や最近の天候予測から考えられる事例を広く紹介し、その時にとるべき行動のシミュレーションをマニュアル化する。

	性別	年代	地域	意見
47	男性	50代	湖北	堤防がコンクリート等で整備されていないところがあります。高時川、姉川です。3m位の土の道の堤防のみです。川の雨量があがるたびに決壊するのではと心配する住民の声が数多くあがっています。大災害が起こる前に是非対策をお願いします。
48	男性	その他	甲賀	1. 水害災害の日を設けて啓発運動をする。例えば防災訓練等。 2. 学校での防災教育をするための教育者への教育
49	男性	50代	湖南	地球温暖化を減す為にもっと自然エネルギーの活用と森林の育成を大事にしなければいけないと思います。 もっと地域の皆様の協力が得られる対策はありませんか。よろしくお願いします。
50	男性	その他	甲賀	広域的な情報は、テレビ、ラジオで放送されているが、身近な情報の提供と伝達方法を考えるべきであると思います。
51	男性	60代	湖東	地区により危機管理意識の差は否めませんが、水害・土砂災害に限らず(地震を含めて)自然災害の感性を住民に半強制的に行政が進めてはどうかと考えます。 ・訓練は自主的なものでは参加率も少なく効果が期待できない。 ・住民全員参加型でこそ意識の向上が図れ連携・コミュニケーションが図れると思われま。滋賀県は特に被害県でないので危機管理意識が低い。災害発生後、いわゆる事後処理は誰でも理解できるが、危険予知・予防をいかに進めるか。行政・市民が一体となって検討していくべき早急の課題と考えます。
52	男性	60代	湖南	町内での連絡網を作成実施し、万が一の時、全員に連絡が行くようなシステムが必要。TV・ラジオでは見ていない、聞いていない人もいると思うためです。
53	女性	60代	甲賀	今現在、川の中に草、土砂が多く大きな水害の折、あふれる危険地が多く見受けられます。区町頼みではなく、もっと責任を持って指導し、区、自治会等を活用しながら防災のための川掃除、土砂掃除をあらゆる所でして頂きたく願っております。 洪水(自然雨量多量を除く)は人間災害でも多く、せめて人間の手で防げるよう常にアンテナを張り行政の支援が(自治の活性化)が望まれます。
54	男性	40代	大津	隣人間の関係が希薄になってきている地域では避難訓練等を通じて顔をつなぎ、いざという時に助け合えたり情報を提供し合ったり、できる体制を作っておく。
55	女性	20代	東近江	川などの整備をする。避難訓練をする事くらいしか思いつかない。地域の人々が協力しあうため、日頃からの付き合いが大切だと思う。ただ、忙しくて参加できない人もいると思うので、地域別に、水害や土砂災害の時の対応法を冊子等にして手元にあると、いざという時に便利かと思う。
56	男性	60代	湖北	開発と水害は一对なので土地の開発時には雨水の処理を行う事を義務づける事が望ましい。又、過去に氾濫した天井川等の河川の堤防の整備をきちんと行政の責任で行ってほしい。
57	女性	60代	湖東	危険地域に住んでいる人はふだんからまわりの川や山や崖などの変化に注意し、気象情報や避難勧告により早めに避難するよう心がける。 災害が予想される地域には近づかない。(家を建てたりしない。洪水を見学に行ったりしない)危険な箇所をチェックし、地域で話し合い、県や市町村に働きかけ、できるだけ早く直してもらったり、相談会をもってアイデアを出し合う。 個人や地域だけでは、大工事などはムリなので市町村や県、国、単位で危険な所を取り上げ、早期に解決するようにする。 道路を水がしみこみやすいように工夫するとか、「水の逃げ道」を考えた道路工事を心がける。川の流れを1本集中にせず、分散して1つの川がすぐ増水して洪水にならぬような河川工事を心がける。 森に広葉樹など色々な種類の木を植林する。(根が深くのびるもの)

	性別	年代	地域	意見
58	女性	30代	大津	定期的に行われている地域の自主防災訓練に家族で積極的に参加するようにする。日頃から近所で声をかけ合い、いざという時のため、助け合いが出来るようにしておく。
59	女性	60代	高島	過疎化が進んで高齢者地域に都市部から移住して2年余り。大都会ではある意味で自己責任で自主防衛の感覚で生活してきた者には行政依存の著しい人たちの生活に驚きを感じます。観光化を推進するためにあらゆる方法をとられていますが、他所からの人たちからみれば、 (例) 避難場所等のハザードマップや指示看板が見あたらない。(学校? 公民館? etc への方向指示がほとんどない不安) 移り住み市役所へ出向き、災害時の対応やハザードマップの件を聞きに行ったが明確な返答はなし(区長は知っている?) あらゆる面で新規住民に対し、災害時の説明対策等は非常に不親切で何も資料がないに等しい。危険意識は薄い。
60	-	60代	高島	減災は自然に逆らわずをモットーとし、大自然の関わりをもう一度見つめ直す学習を心がけ、農林業はもちろん市街地にあっても、樹木・除草の繁茂も適正育成しつつ環境整備も怠らない。
61	女性	40代	湖北	治山事業の見直し 山の林道と災害の関係を調べる
62	男性	その他	湖北	姉川の左岸地域に住んでいますが、河川敷の畑(私有地のため)雑木(柳など)、竹などが繁茂し、大水が来たとき、流水の妨げになります。行政では、地権者の承諾を得て、伐採の方針ですが、遅々として進んでいない現状です。台風による大雨洪水と姉川の氾濫 堤防決壊 明治の末に大決壊している ご努力願います。 旧びわ町の私の自治会も長浜市に合併しましたが、合併前から毎月9月始めに、地震を想定しての各隣組単位で(隣組長指揮)避難訓練をし、その後、農村公園に全員集合して、消防署から来てもらって、火災消火訓練、地震体験車に乗車などしています。 私の自治会は数年前から、婦人消防隊を作って活動していただいています。
63	男性	30代	湖南	避難訓練の定期的な実施
64	男性	20代	東近江	河川の整備は当然だと思いますし、今後、森林エリアで出来ることをコツコツと展開する必要があると思います。
65	男性	その他	東近江	個人も大切であるがやはり地域ぐるみの取り組みが大切で、現状の実態調査をくまなく行い、あらゆる角度から危険要因を出し合い、パレート図等にまとめて重要項目から解決するための検討を積極的に進める。 自然災害は恒久的な対策が重要だと考えています。
66	男性	50代	高島	水害・土砂災害の被害を少なくすることは行政、住民の課題である。復旧に要する負担は税金であっても、個人負担であっても、無駄金である。そうならないように施策は必要である。その効果は将来の保険であり、即現れるものではないことから、長期的な視点により実施しなくてはならない。 1. 少子高齢化が進む人工予測 2. 都市計画、産業計画 3. 地域のビジョン 将来を見据えたコスト・効果のある防災行政を望む。

	性別	年代	地域	意見
67	男性	その他	湖東	芹川流域の多賀町八重練地内で通称高橋付近の川幅が極に狭くまた支流が流入している故、20 米程上流で河川が蛇行し、過去の水害で護岸が崩れ、民地内に護岸を作り、遊水地となって、今の所災害は受けていないが、危険な地域である。早く対策してほしい。
68	男性	60 代	湖北	私は高時川の周辺で住んでいますが、洪水が発生すると、堤防がいつ決壊するか心配です。毎年区の代表者より役所に河川の整備事業を早急を実施して欲しいと要望しているが、何々出来ないのが現状です。そこで役所で言っても何々進まないで我々の手で河川の雑木を切って整備しようと思っているが、これも何々返事がこない状態です。今後も要望し、早急に整備工事が出来るよう進めたい。
69	男性	60 代	湖北	行政は河川を常に監視する。危険な場所があればチェックして、危険が高いと思ったらすぐ工事すること。崖や山が崩れる危険があれば標識を立てる。危険を感じたら早めに避難する。
70	男性	その他	湖南	一級河川(伊砂々川)の流れから 1m に二階建ての家に住んでいる。豪雨の時は今でも敷地へ水が入ってくるので怖い。
71	男性	60 代	甲賀	1. 滋賀県は昔に比べたら災害が他府県に対してほとんどない。又最近発生していないため、私自身はもちろん家族も気がゆるんで(安心して)いると思っています(県民全員が)ので常に自主的な防災を意識して組織を作ることが(地域の防災組織をふやすことが必要)大事となってきましたので努力しています。(県民自身が常に災害の恐ろしさを意識と行動) 2. 河川の増水(淀川、野洲川等)で堤防すれすれまで来た時見た時は本当に災害の恐ろしさが分かったので小学校から学校教育にも災害の恐ろしさと災害の被害を少なくする教育の徹底を願います。
72	男性	その他	東近江	自主防災意識の向上と地域での自主防災組織の強化が何よりも大切であり、環境整備は行政で予算化して必要度合いの高いものから取り組んでいただきたい。
73	女性	50 代	東近江	近くの日野川の整備がようやくされています。やはり整備されることが近くに住む人にとっては安心です。
74	男性	60 代	湖南	別にありませんが日頃から常に大雨の時になったらの心がまえが必要だと思えます。自分の家は安全だからとであっても地域全体の事を考えるべきだと思えます。
75	男性	60 代	大津	1. 自然を守る活動の推進 里山の復活と保全 休耕田の活用方法を見つけて、ダム効果を保全する 森林保護 山地からの土砂採取の禁止 2. 自治会活動など、地域での防災意識を高める。及び上記の活動母体(準ボランティア 危険性の高い活動のため)となるよう組織構成する。
76	男性	その他	大津	各家庭の生垣などの落ち葉が下水流水口に落ち込まないように注意し、必要な場合は名々で防止措置を講じる。 中にはこれをあえて掃き捨てる者がいると聞くがこの行為は軽犯罪法第 1 条 25 の水路流通妨害として罰せられることを住民にアピールする必要もあると考えます。
77	女性	60 代	湖南	今住んでいる地域は、水害や土砂災害がないと思っておりますが、場所的に山、川のそばに住んでおられる方達は日頃から注意をしていただきたいと思います。 それとテレビ、ラジオに注意して早めの対策に取り組んでいただきたいと思います。

	性別	年代	地域	意見
78	女性	30代	大津	近年の異常気象によって一極集中型の豪雨が日本でもよく起こる現象となってきたようなので、十分な河川の整備が必要であると思う。しかしそれだけでは自然の大きな力に負けてしまうこともあると予想される。やはり個人1人1人が庭を持つ(全てコンクリート張りにしないで)などして自然を身近に感じるように努めることが、小さいようで大きな違いになるのではないのでしょうか？
79	女性	40代	湖北	整備(河川等)は大切なのは？
80	男性	60代	大津	地域の確認、法面、石積<ブロック塀等>排水溝等 大津市琵琶湖洪水ハザードマップ(土砂災害のおそれがある箇所)確認 防災マップ(消防署でもらった)
81	女性	40代	高島	以前、近隣でも水害があったこと藤本太郎兵衛さんのような水害対策に貢献した人のことなど家庭内でも子どもに話し、そういった被害があるかもしれないことを教えていきたいと思います。
82	女性	60代	湖南	行政からの避難勧告がでたりした時は速やかに行動を起こすべきだと思う。
83	男性	60代	甲賀	1. 自然を壊しすぎない事と保全保護をし、開発しすぎない事。環境破壊は人が守る意識が災害が多発することは今更、しかし1人1人が守る、この事がケアとして必要。行政も参画機能をつくりあげていくルールを引かなくてはならないと思う。 2. 問19はすべて必要と思うし、地域に如何に根付く様にすべきか、これにはマニュアル作成されていれば、これに基づく各地域に委員会をつくり環境を守る1つの要素として組織を作り、日常の備え、いざ事が発生しても円滑冷静な行動や対応が事前の準備怠りなしをしておく事。一言では自然は通用しないので備えるものは予知段階にて必要である。
84	女性	20代	東近江	個人レベルでは、水害や土砂災害の起こりやすいとされる地域の居住を避ける、避難指示(勧告)でただちに避難することに留意する必要があると思う。 地域レベルでは、個人の行動指針となるのに十分な情報(EX: 災害の危険が高い場所、避難経路および場所について)の提供に留意する必要があると思う。
85	女性	40代	高島	日頃から万が一災害となった場合を想定して町ぐるみで対策を考え、真剣に取り組み、対処の練習をしておくことが大切と思う。 いつどこでどうなるのかわからないのだからそうなってしまった最悪の時、どうするか、どう動くかの認識をひとりひとりしておくべきと思う。
86	男性	60代	湖南	県から示された危険流域を常に認識できるように自治会の活動等を通してキャンペーン・提示を行う。
87	女性	その他	大津	お陰様で私の住まいの地域では水害による被害は比較的少ないですが、集中豪雨等の鉄砲水などは発生する可能性はあり、常日頃より河川敷の清掃等は定期的実施し災時に備えることが肝要と思います。
88	女性	30代	大津	水害について今まで何も考えた事なかったです。 今年、福井県の親族宅が水害でひどい目にあったのは聞きました。来年は保険に加入したいと思います。

	性別	年代	地域	意見
89	男性	60代	湖南	<p>1) 住まい、生活する場所の立地条件: * 出かけていて目に付く場所があります。よくぞこんなところに家を買ったものだ、建てたものだ。素人でも(だからかもしれないが)無理と思える宅地(業者の造成地)に建った家 その結果、災害が起こっているケースが多い(TVニュースを見ていて) * 私は絶対に選ばなかった・山を削った傾斜の宅地・後部が崖っぷち・河(大きな河)沿い・山の麓 いくら国土が狭い、また自己責任の問題ではとはいえ、どんな基準になっているのでしょうか。 * 絶対に大丈夫(平地並に、の意味)との観点で許可が出ていますか? でないならば、造成許可をださないで欲しい</p> <p>2) 川(河)の中州、木立: * これも洪水の原因になると聞いたことがある。(問19にも) * その場所の修復工事をやってほしい:遅々として進んでいないのでは? ・ボランティアでの可能性は?:水量が少なく危険性の全くないその場所を手入れする(植物くらいは)。 ・森林の枝打ちのボランティアが仲間におります。可能ではないか。(県の関係のボランティアだったと記憶しています)</p> <p>3) 厳罰:川(河)に大きな物(木や大型ごみ)を捨てた対象者に厳罰を徹底してほしい</p>
90	男性	60代	湖南	河川の改修等が進められる事は大変好ましいが、出来た後の維持管理が未だ不十分である。特に河川内の草木や土砂を定期的に撤去して頂きたい。
91	-	60代	大津	自治会単位での河川の清掃草刈りの取り組み 植林 河川の改修はすべてコンクリートによる三面張りといわれる工法がとられています。河川の状況によっては、自然にやさしい工法をとってほしいと思います。
92	男性	60代	湖南	ハザードマップの理解を深める 内容は行政専門用語を使わず、わかりやすい資料とする。 河川(一級)の周辺住民に、洪水に関する情報を迅速に的確に知らせる。
93	女性	50代	湖東	森林伐採の限度また山々に苗木の植林。私の住んでいる近くの山も昔に比べると荒れてきていると思います。また木が枯れているのも見えています。自然は美しく森林は大切に…。昔は山守りをする人がいましたが今はそういう人がいないように思います。「自然に逆らうと災害が起こる」とおばあちゃんやおじいちゃんがよく言っていました。
94	男性	30代	湖南	危険地域においては注意喚起
95	女性	その他	湖南	自分達の住んでいる地域を知る事が大切である。地域の河川の上流、下流の流れを調べ、大雨の時に情報提供が出来る様にする。
96	男性	その他	甲賀	毎年6月～7月に琵琶湖を美しくする月間? 河川掃除を行っています。最近では川の中の雑草を刈らない(これはN・Pを吸収させるため)ようになっています。 土砂が堆積して河床が上昇しているようにも思える。水害につながることも懸念している。何年に一回は中の雑草を刈ることも必要ではないでしょうか。
97	男性	60代	東近江	川底面より低い土地に住宅建築の許可をしないこと。調整区域に指定する。 (上記の土地で水害が発生すると(税金による)多方面からの救助等が必要になり、公からの補償行為も生じてくる) 転んでからの杖代を税金で払う様なもの。「転ばぬ前の杖」は規制です。

	性別	年代	地域	意見
98	女性	60代	大津	<p>連携を強くすること 折角の自治会があっても、会費を集めるだけの我が町内会はとなりで倒れていてもわからないこわさがある。各自治会の会長はただ継続の年数だけで表彰されているが、何をしたかで評価すべきだ。(最新の自治会の市民ニュースにでていたが何もやらない自治会長をみたのでそう思った)</p> <p>訓練や隣人の声かけは最低限自治会に望む(昔のとなり組とか町内会は暖かった)</p>
99	女性	50代	湖南	<p>暴風雨警報などが出た時には絶対室外に出ない意識化。 河川の整備 川の流れを変えることによって安全になる場合もある。それに対する協力</p>
100	男性	その他	東近江	<p>竈で薪を焚いていた当時は木葉を掻いたり枯れ枝、立枯等を整備していたが、ガス燃料に代わってより大木以外の伐採はなくなった。 松食い虫に浸食され山は荒れ、少しの大雨にゴミとなった木葉等のもろもろはその水を鉄砲水となし麓を襲う。 又、山主はよく管理し、無茶な伐採もおこなわないこと。勿論、河川の整備は十分に繁茂した草木の撤去は申すまでもない事である。</p>
101	女性	40代	湖北	問 19 での 1 と 10 を連携させて地域での協力。又その支援を自治体で...
102	男性	50代	湖南	常に地域全体で自主防災意識を向上する意味から地域防災組織の強化が必要である。又、行政からのソフト面、ハード面のサポートが重要である。
103	男性	20代	湖北	森林、里山への関心を広げていく。(山の保水力の再確認)
104	男性	その他	大津	問 19 の 9 の確実な実施。川は必ず底が浅くなり草が茂る。この自明の理の危険性の教育および、行政の行動(予算計上)を希望します。
105	女性	40代	甲賀	<p>個人においては、雨水を一時蓄える用意をする。敷地内を全面コンクリート等でおおったりしない。植物を出来るだけ育てる。 行政において、あまりにも小面積の宅地の売買を止める指導をする。上記 を奨励すること(税優遇などで)</p>
106	男性	60代	東近江	水害・防災のみでなく、あまりにも「自由」がはびこりすぎている。「勝手気ままな社会」から「他人に迷惑をかけないことを考える社会」へのために、土地の利用制限は行うべき。省エネ省資源の必要な時代、我々は豊かさをやりすぎている。NTTにしても、関電にしても遠方まで少しの人々のために(ユニバーサルサービス?)過剰サービス。日本の将来のため「教育」から手をかけるべきと思う。
107	男性	60代	湖南	<p>災害をゼロにすることは出来ません。いつかは起こると考えておく必要があります。最小限にするために事前の備えが必要でしょう。そのためには、事前の準備のための必要事項を一覧表の作成をし、それに従って準備をし点検を定期的に行っています。 他人に迷惑をかけないような配慮がしたい。事前に避難を心がけます。</p>
108	男性	30代	湖南	自分の住んでいる地域が安全なのか危険なのか。また、どの程度の頻度で被害を受ける恐れがあるのか、それらの情報を認識できる必要があると思う。

	性別	年代	地域	意見
109	男性	60代	湖北	定期的に実施している排水溝の泥上げや清掃、草刈り作業を継続実施していく。傾斜地、山際には居住しない。山林の伐採を制限する。地域防災の訓練を継続実施する。早期に防災マップを完成させ事態に備える。
110	男性	30代	大津	個人や地域より行政の働きが重要。洪水や土砂に対する対策は、個人では難しく(そう思っています)行政の管理指導が必要。
111	男性	60代	湖南	特に発生の危険性が高い地域については、各種の対策強化を図る。
112	男性	60代	大津	防災ダムや従来の河川改修(コンクリートによる)による防災から脱却し、森の治水力を高めたり、河川の用水路化を止める必要がある。保水力という観点から水田を見直すべきである。
113	女性	40代	湖北	やはり日頃から災害に対する備えをし、災害時には行政からの情報や指導にすみやかに従うべきだと思います。
114	男性	30代	大津	身近にある小さな川や側溝の掃除をなるべく行うことが必要だと思います。また、普段より避難場所への経路などを確認すべきと考えられます。